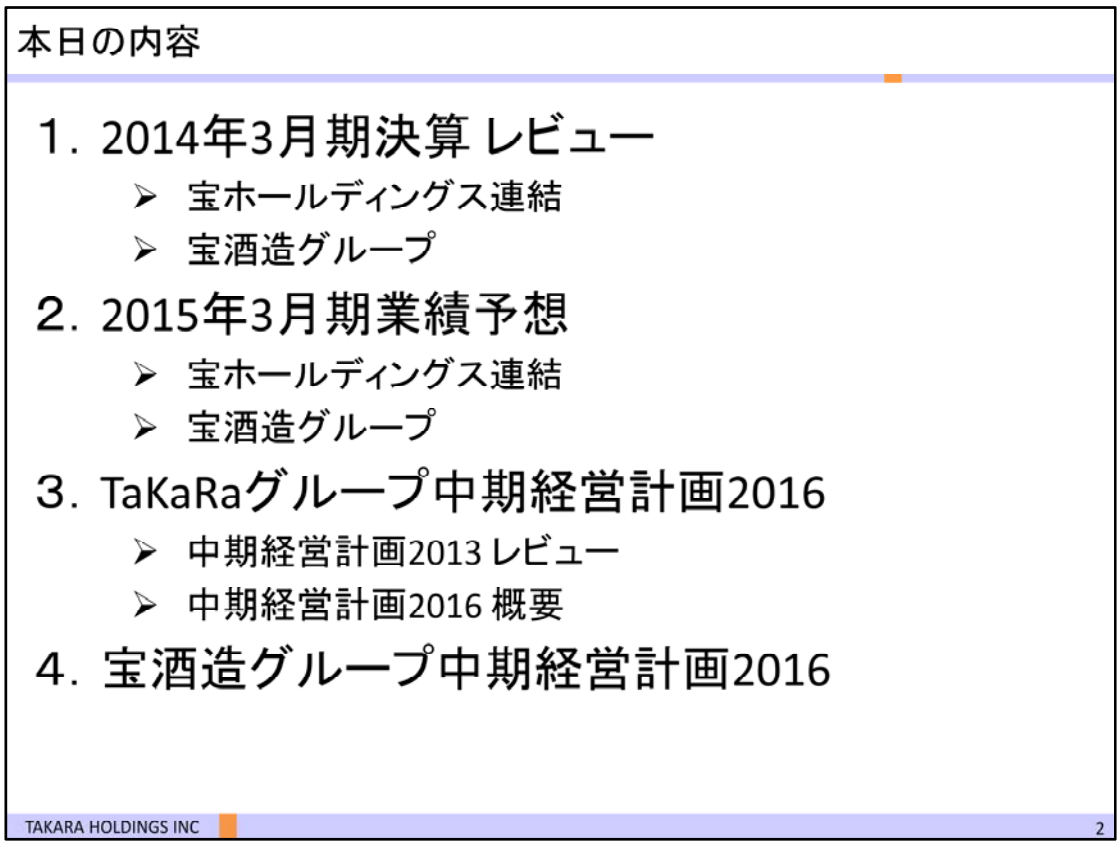
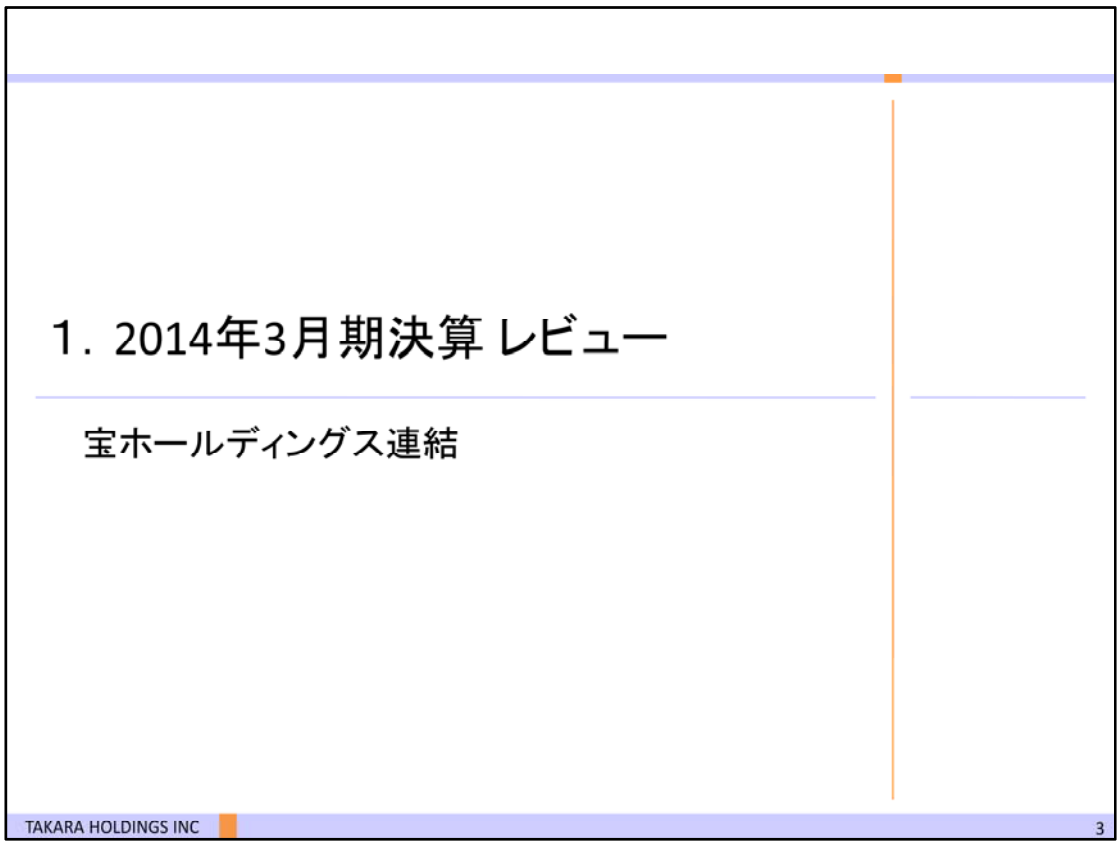
2014年3月期決算
中期経営計画2016 説明会

2014年5月13日
宝ホールディングス株式会社



【決算説明および業績予想　　発表者:取締役　松崎 修一郎】

・本日は、お忙しいところ、当社グループの決算および中期経営計画の説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
・まず、2014年3月期の決算の概況と、2015年3月期の業績予想について、ご説明させていただきます。



・宝ホールディングス連結の2014年3月期の決算についてご説明いたします。

宝HLD連結_P/L概要：売上高～営業利益　（2014年3月期）

（単位：百万円）	14/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/1予想比 増減	11/1予想比 率(%)
宝酒造グループ	182,306	5,360	3.0	206	0.1
タカラバイオグループ	23,905	3,341	16.2	205	0.9
宝ヘルスケア	1,424	▲ 584	▲ 29.1	74	5.5
その他	1,931	462	31.4	81	4.4
売上高	209,568	8,579	4.3	568	0.3
売上原価	129,447	5,816	4.7	947	0.7
売上総利益	80,121	2,762	3.6	▲ 378	▲ 0.5
運送費	7,708	384	5.3	8	0.1
広告宣伝費	3,546	▲ 251	▲ 6.6	46	1.3
販売促進費	32,954	116	0.4	▲ 445	▲ 1.3
研究開発費	3,376	285	9.2	▲ 323	▲ 8.7
管理費、その他	23,044	1,870	8.8	144	0.6
販売費及び一般管理費	70,631	2,405	3.5	▲ 568	▲ 0.8
宝酒造グループ	6,329	▲ 58	▲ 0.9	129	2.1
タカラバイオグループ	1,954	262	15.5	53	2.8
宝ヘルスケア	21	43	ー	13	168.6
その他	1,184	108	10.1	▲ 6	▲ 0.6
営業利益	9,490	356	3.9	190	2.0

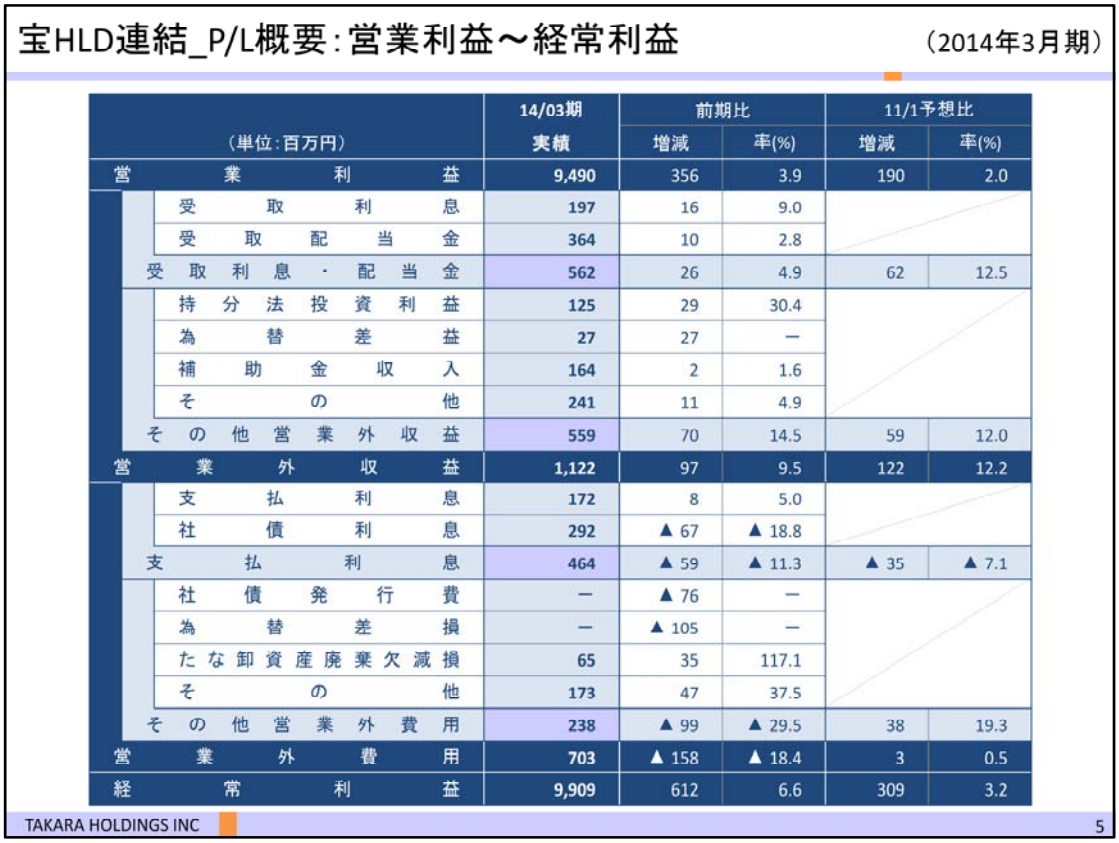
TAKARA HOLDINGS INC　4

・連結損益計算書の売上高から営業利益について、ご説明いたします。

＜前期比＞
・売上高は、前期比85億7,900万円増収の2,095億6,800万円と過去最高となり、グループ別には、宝酒造グループで53億6,000万円、タカラバイオグループで33億4,100万円の増収となりました。
・営業利益は、前期比3億5,600万円増益の94億9,000万円となり、グループ別には、宝酒造グループで5,800万円の減益ですが、タカラバイオグループでは2億6,200万円の増益となり、宝ヘルスケアは初の営業黒字化を達成いたしました。

＜11/1予想比＞
・売上高は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに予想を上回り、予想比5億6,800万円の増収となりました。
・営業利益につきましても、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに予想を上回り、予想比1億9,000万円の増益という結果になりました。

宝酒造グループは、売上高は増収となりましたものの、営業利益では減益という結果となりました。この要因につきましては、p.9-10でご説明いたします。



・営業外損益の状況についてご説明いたします。

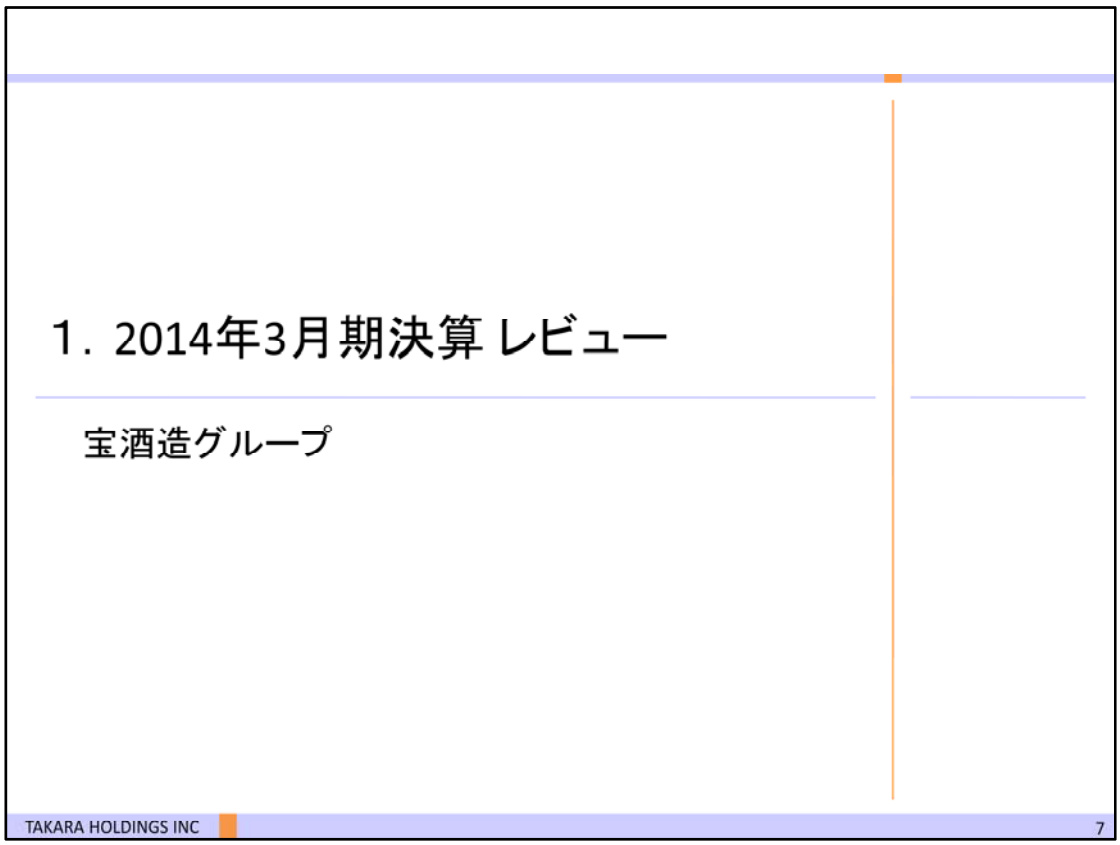
＜前期比＞
・営業外収益は、受取配当金や受取利息の増加などにより、9,700万円の増加となりました。
・営業外費用では、支払利息の減少などにより、1億5,800万円の減少となりました。
・経常利益は、前期比6億1,200万円増益の99億900万円となりました。

＜11/1予想比＞
・営業外収益が予想を1億2200万円上回り、営業利益の増加と合わせ、経常利益は、予想を3億900万円上回る結果となりました。

・特別損益および当期純利益の状況について。ご説明いたします

＜前期比＞
・特別利益で、タカラバイオ株式の一部売却による関係会社株式売却益が発生し、前期比76億1,600万円増の95億6,500万円となりました。
・特別損失では、旧白河工場跡地を震災復興支援として白河市に寄贈したことなどによる固定資産譲渡損の計上がありましましたが、前期に計上しておりました固定資産除売却損や投資有価証券評価損が減少したことなどにより、特別損失トータルでは、11億5,600万円減少し、8億3,200万円となりました。
・当期純利益は、前期比55億9,300万円の大幅な増益の102億8,000万円となり、売上高とともに過去最高となりました。

＜11/1予想比＞
・特別利益が1億6,500万円上回り、特別損失が3億6,700万円下回ったため、当期純利益は5億8,000万円、予想を上回りました。



・宝酒造グループの2014年3月期の決算について、ご説明いたします。

宝酒造G_P/L概要　（2014年3月期）

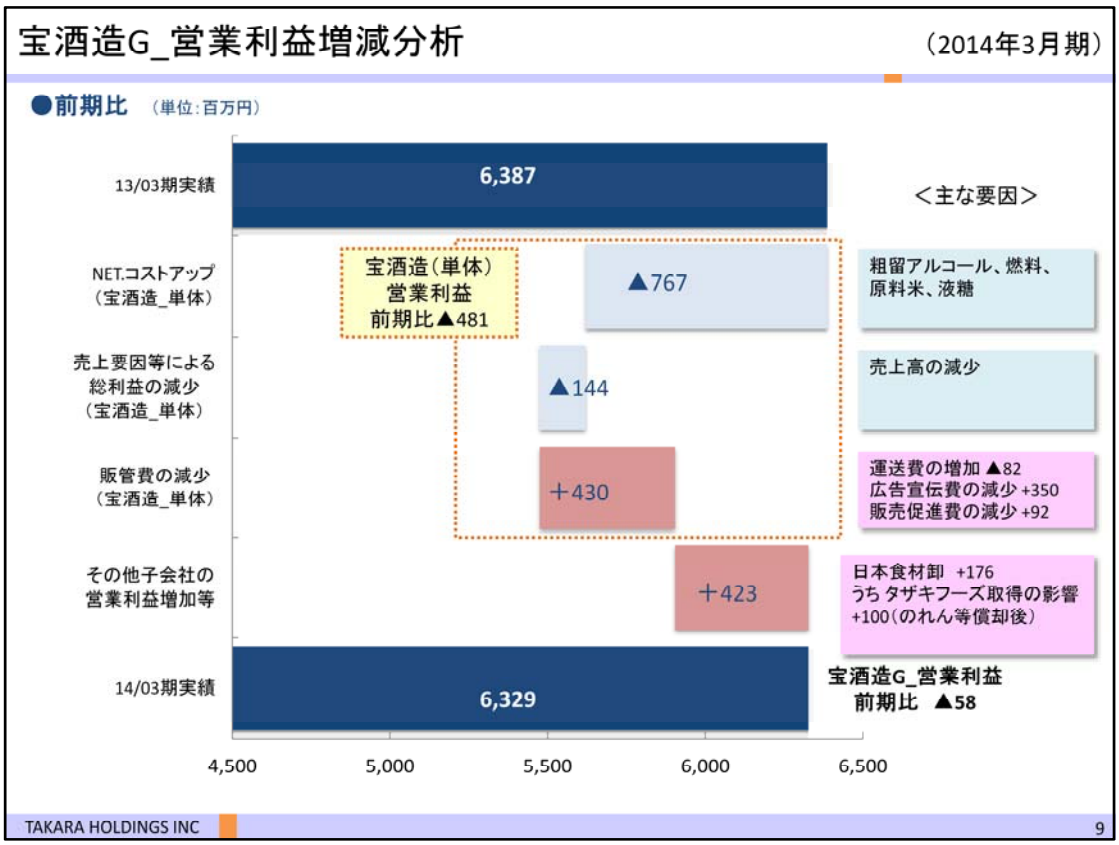
（単位：百万円）	14/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	11/1予想比 増減	11/1予想比 率(%)
焼酎	65,977	▲ 4,653	▲ 6.6	▲ 722	▲ 1.1
清酒	23,513	1,776	8.2	▲ 486	▲ 2.0
ソフトアルコール飲料	26,772	1,015	3.9	▲ 827	▲ 3.0
その他酒類	12,583	1,536	13.9	683	5.7
本みりん	14,886	333	2.3	386	2.7
その他調味料	8,645	815	10.4	145	1.7
原料用アルコール等	6,899	▲ 22	▲ 0.3	99	1.5
その他	23,028	4,559	24.7	928	4.2
売上高	182,306	5,360	3.0	206	0.1
売上原価	116,619	4,235	3.8	719	0.6
売上総利益	65,686	1,124	1.7	▲ 513	▲ 0.8
運送費	7,067	398	6.0	▲ 32	▲ 0.5
広告宣伝費	3,115	▲ 305	▲ 8.9	15	0.5
販売促進費	31,889	74	0.2	▲ 510	▲ 1.6
研究開発費	341	▲ 22	▲ 6.1	▲ 58	▲ 14.6
管理費、その他	16,943	1,037	6.5	▲ 56	▲ 0.3
販売費及び一般管理費	59,357	1,182	2.0	▲ 642	▲ 1.1
営業利益	6,329	▲ 58	▲ 0.9	129	2.1

TAKARA HOLDINGS INC　8

・宝酒造グループの損益概要について、ご説明いたします。

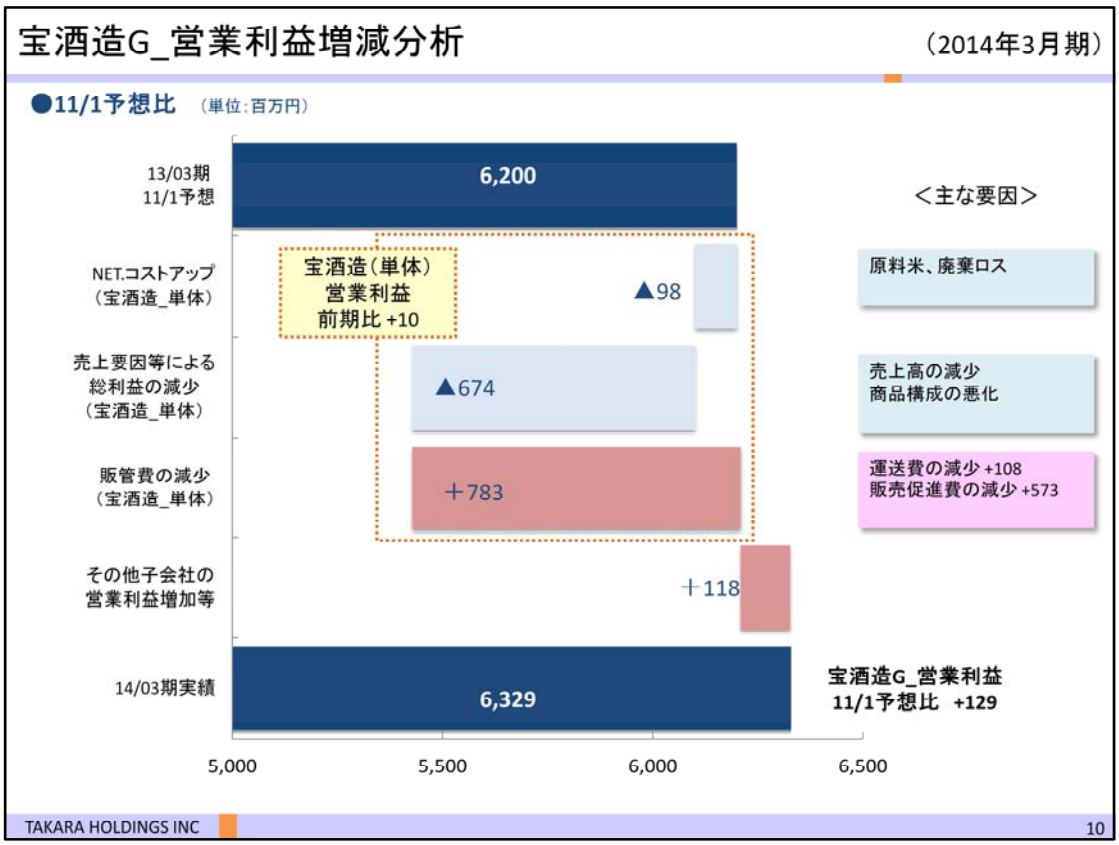
＜前期比＞
・売上高合計では、前期比53億6,000万円増収の1,823億600万円となりました。
・品目別では、焼酎で46億5,300万円の減収となりましたが、清酒で17億7,600万円、ソフトアルコール飲料で10億1,500万円の増収となりました。
・また、その他に含まれる海外日本食材卸事業では、昨年9月に新たに連結子会社となったタザキフーズの売上6か月分が加わったほか、フーデックスの売上が円安の影響も含めて増収となりました結果、その他が大きく増収となりました。
・一方で、原材料のコストアップなどにより売上原価率が上昇したこと、および、販管費において運送費や人件費が為替の影響もあり、増加いたしましたことから、営業利益につきましては、前期比5,800万円減の63億2,900万円と、若干ながら減益となりました。

＜予想比＞
売上高は焼酎・清酒・ソフトアルコール飲料が未達だったものの、日本食材卸事業などが予想を上回り、また、販売促進費などが減少した結果、営業利益は、1億2,900万円、予想を上回りました。



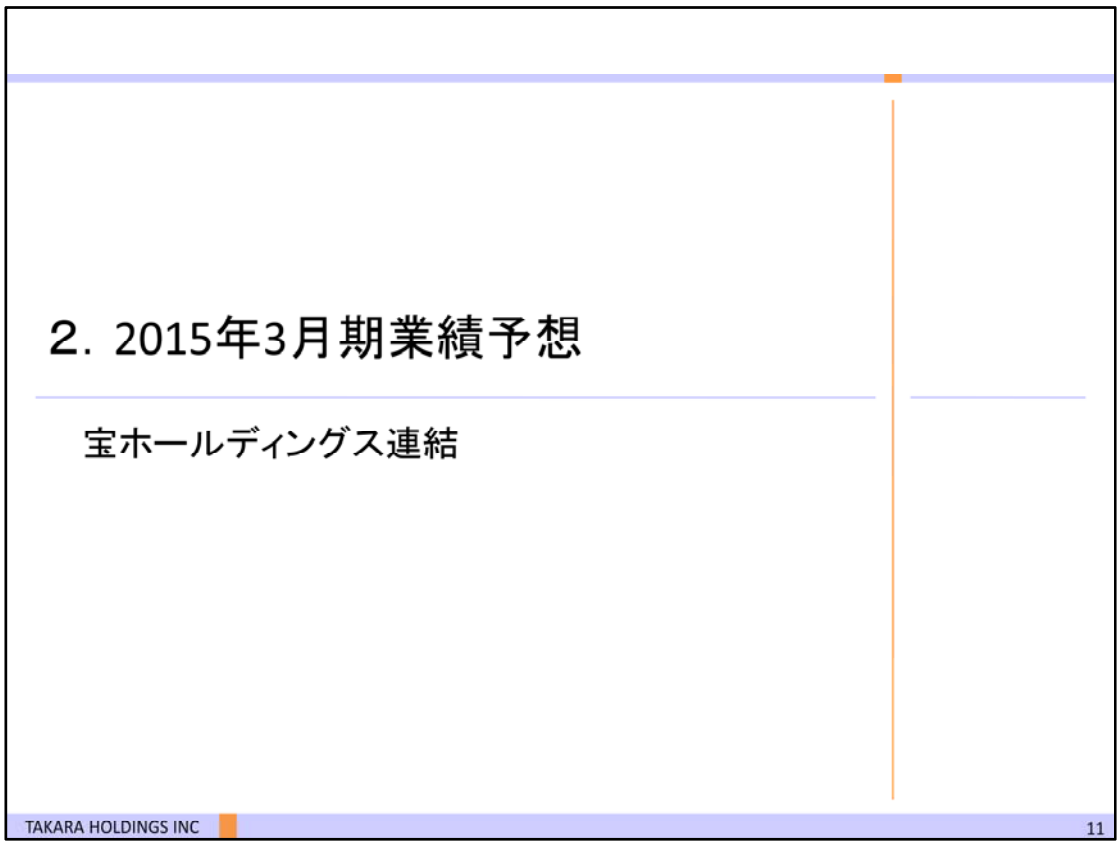
・連結営業利益の増減について、まずは前期比で、ご説明いたします。

・まず、宝酒造単体でみると、売上原価では円安の影響により、粗留アルコールや、燃料、原料米などの価格が高騰し、コストダウンと差し引いた、ネットのコストアップは7億6,700万円となりました。
・また、宝酒造単体の売上減少など、売上要因による総利益の減少が1億4,400万円となりました。
・販管費では、商品構成の変化により、運送費が増加しましたが、広告宣伝費や販売促進費の減少などにより、販管費トータルでは、4億3,000万円減少いたしました。
・以上の結果、宝酒造単体の営業利益は、前期比4億8,100万円の減益となりました。
・宝酒造単体以外につきましては、海外の子会社を中心に、全体で4億2,300万円の増益となりました。



・11/1予想比では、宝酒造単体の売上高が未達となり、売上要因等による総利益は6億7,400万円の減少となりましたが、販管費の減少や削減で補い、宝酒造単体の営業利益は、ほぼ予想通りの結果となりました。

・子会社については、海外子会社等の利益が予想を上回った結果、宝酒造グループの営業利益は、予想を1億2,900万円上回りました。



次に、2015年3月期の業績予想について、まずは、宝ホールディングス連結についてご説明いたします。

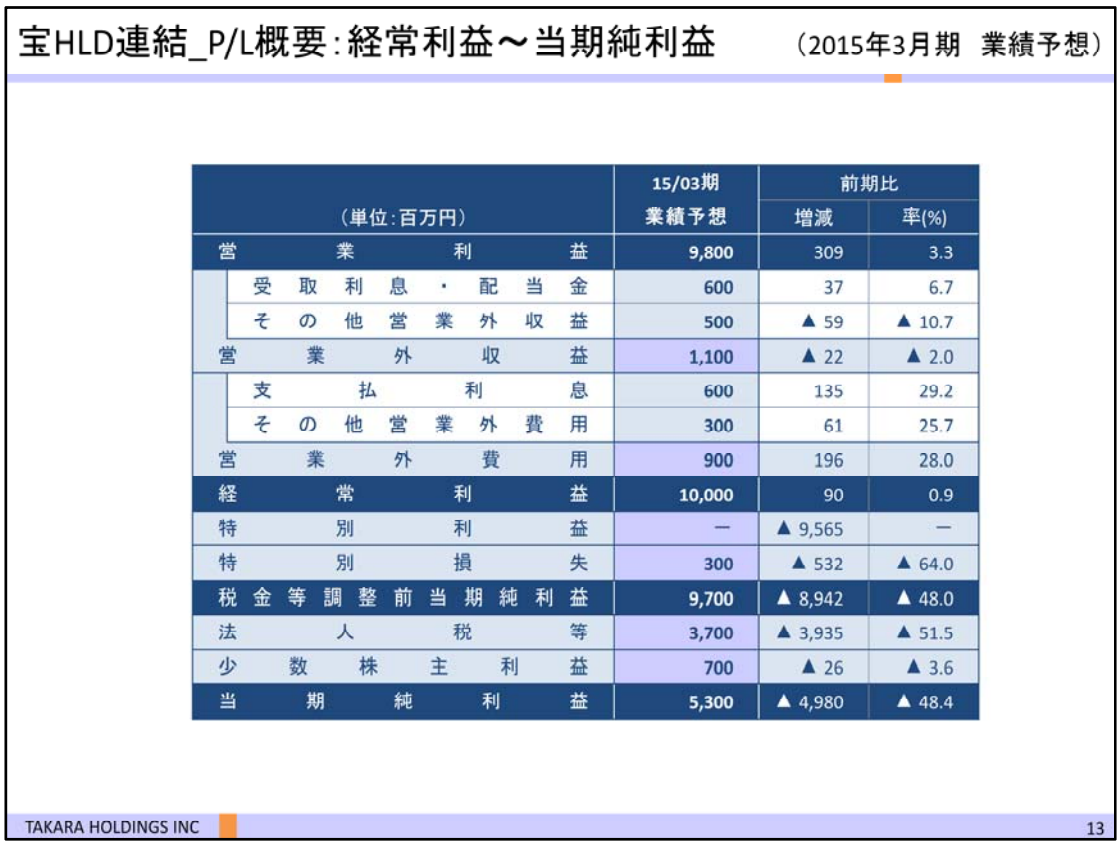
宝HLD連結_P/L概要:売上高～営業利益　（2015年3月期　業績予想）

（単位:百万円）	15/03期 業績予想	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造グループ	189,500	7,193	3.9
タカラバイオグループ	25,200	1,294	5.4
宝ヘルスケア	1,580	155	10.9
その他	1,720	▲ 211	▲ 11.0
売上高	218,000	8,431	4.0
売上原価	134,000	4,552	3.5
売上総利益	84,000	3,878	4.8
運送費	8,000	291	3.8
広告宣伝費	3,600	53	1.5
販売促進費	33,500	545	1.7
研究開発費	4,000	623	18.5
管理費、その他	25,100	2,055	8.9
販売費及び一般管理費	74,200	3,568	5.1
宝酒造グループ	6,800	470	7.4
タカラバイオグループ	2,000	45	2.3
宝ヘルスケア	30	9	42.0
その他	970	▲ 214	▲ 18.1
営業利益	9,800	309	3.3

・売上高から営業利益までの予想について、ご説明いたします。

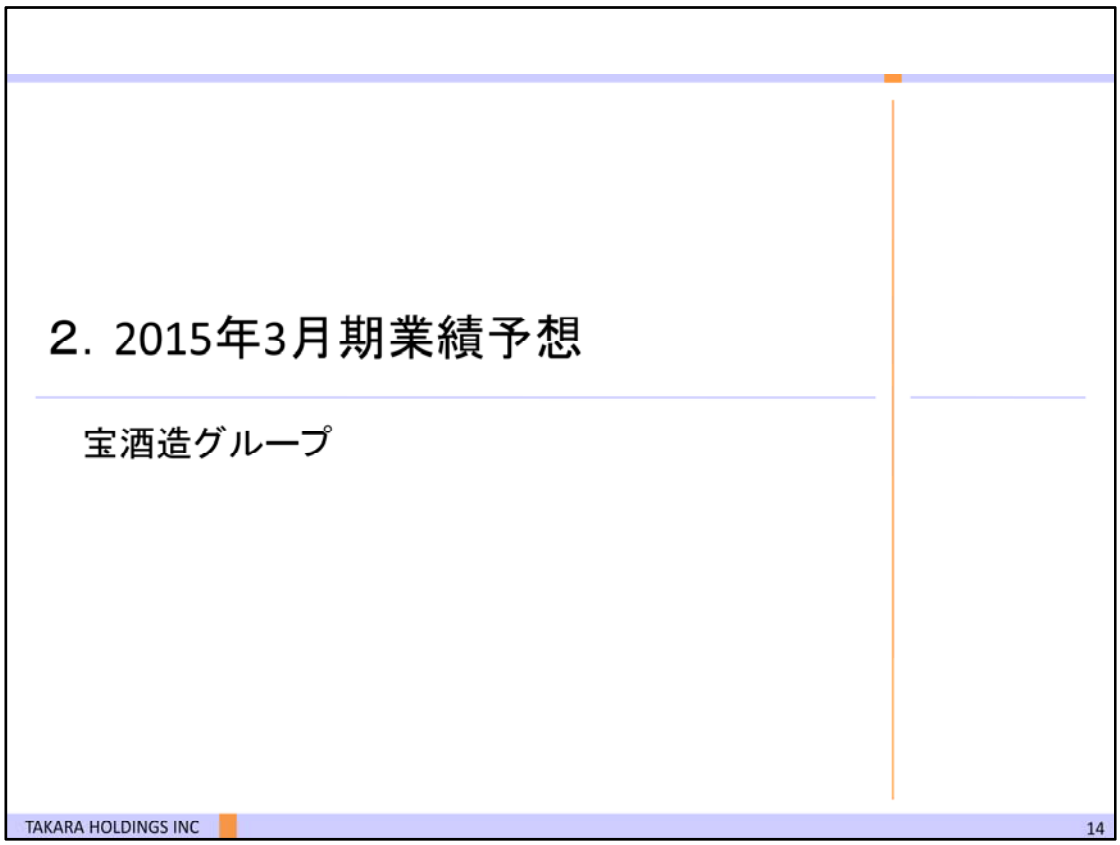
・売上高は、宝酒造グループでは清酒や日本食材卸事業の伸長、タカラバイオグループではバイオ支援産業の拡大などにより、ともに増収の計画で、連結売上高は、84億3,100万円増収の2,180億円を計画しています。
・営業利益につきましても、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増益の計画で、連結営業利益は、98億円を計画いたしております。

・宝酒造グループの業績予想につきましては、p.16でご説明させていただきます。



・営業外収益から当期純利益までの予想について、ご説明いたします。

・営業利益は約3億円の増益となりますが、一方で、営業外費用の増加などにより、経常利益は9,000万円増の100億円にとどまります。
・また、前期、特別利益に計上しておりました、タカラバイオの株式売却益がなくなることにより、当期純利益につきましては、49億8,000万円減の53億円を計画しております。



・宝酒造グループの業績予想について、ご説明いたします。

宝酒造G_P/L概要

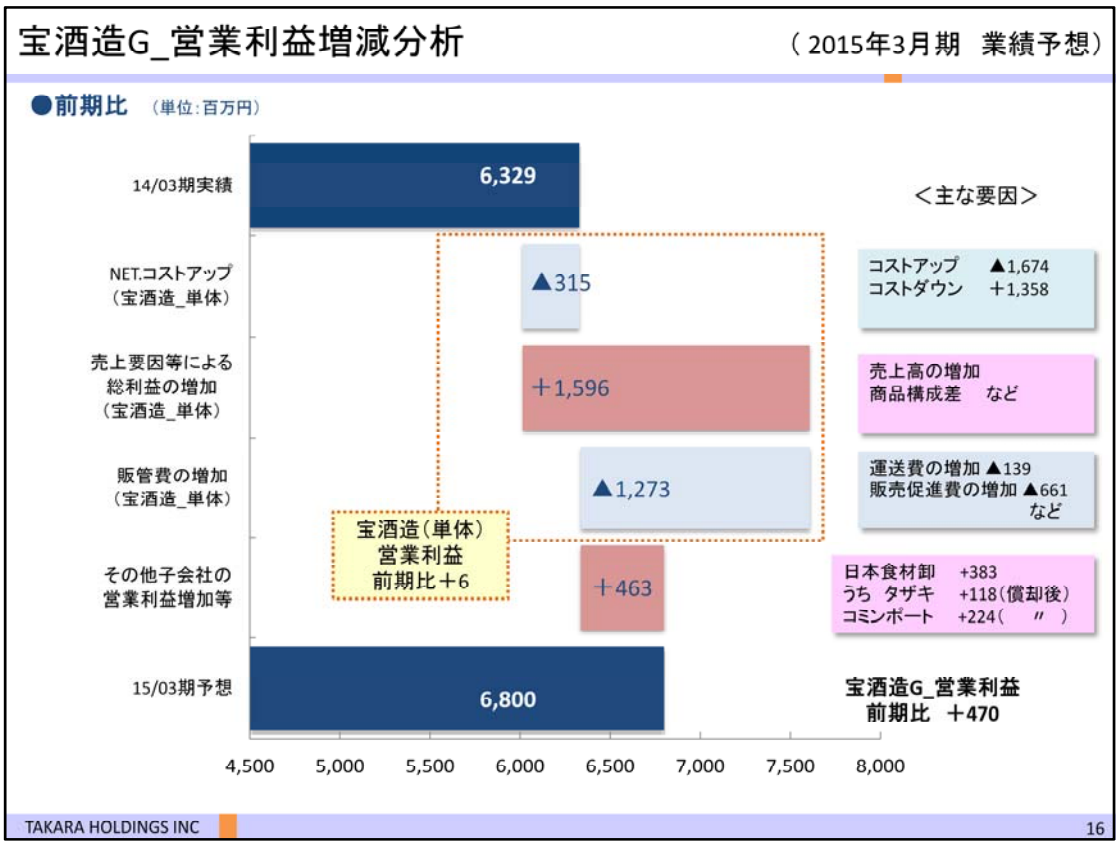
（2015年3月期　業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 業績予想	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	63,900	▲ 2,077	▲ 3.1
清酒	26,300	2,786	11.9
ソフトアルコール飲料	27,400	627	2.3
その他酒類	12,800	216	1.7
本みりん	14,300	▲ 586	▲ 3.9
その他調味料	9,300	654	7.6
原料用アルコール等	7,300	400	5.8
日本食材卸	14,500	5,422	59.7
その他	13,700	▲ 250	▲ 1.8
売上高	189,500	7,193	3.9
売上原価	121,000	4,380	3.8
売上総利益	68,500	2,813	4.3
運送費	7,400	332	4.7
広告宣伝費	3,100	▲ 15	▲ 0.5
販売促進費	32,500	610	1.9
研究開発費	400	58	17.1
管理費、その他	18,300	1,356	8.0
販売費及び一般管理費	61,700	2,342	3.9
営業利益	6,800	470	7.4

TAKARA HOLDINGS INC　15

・売上高につきましては、焼酎が減収予想となっておりますが、これを、順調に売上を伸ばしている清酒や、日本食材卸事業の増収でカバーし、売上高トータルでは、71億9,300万円増収の1,895億円を計画しております。

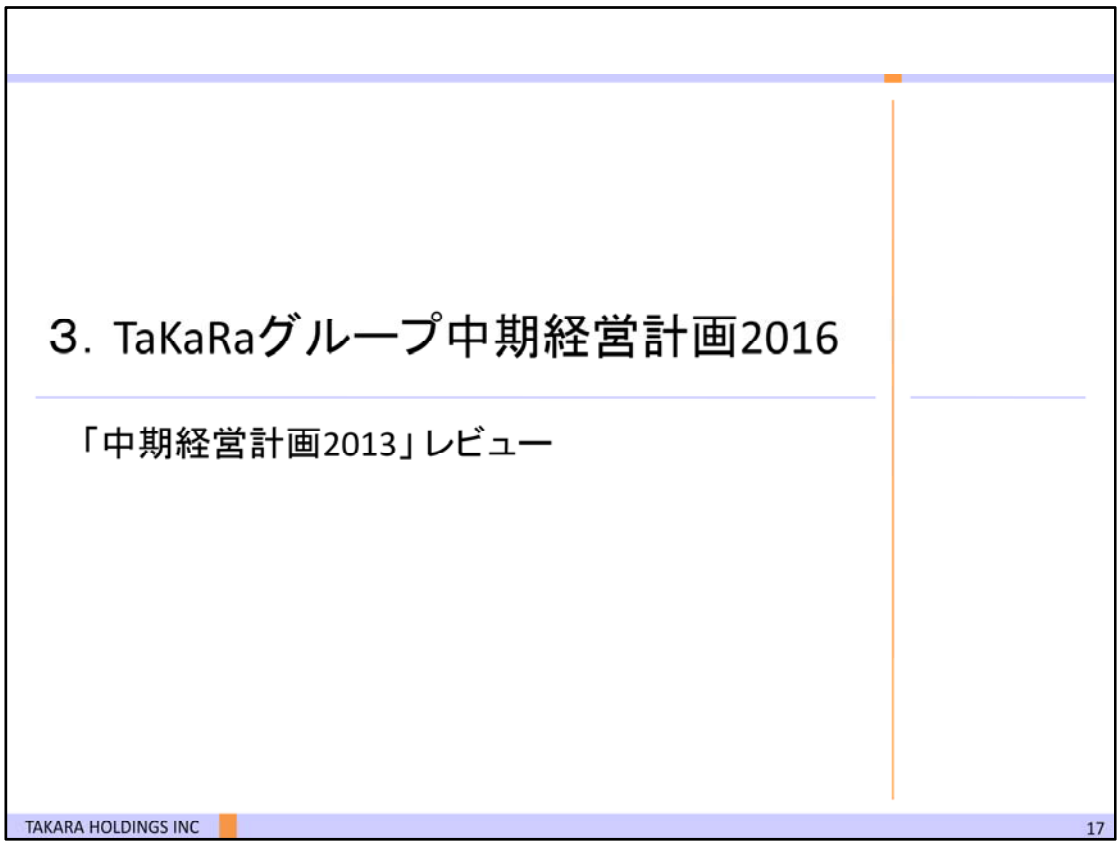
・売上総利益は、28億1,300万円増の685億円を見込んでおり、売上高増加による販管費の増加がありますものの、営業利益では4億7,000万円増の68億円を計画しております。



・営業利益の増減について、ご説明いたします。

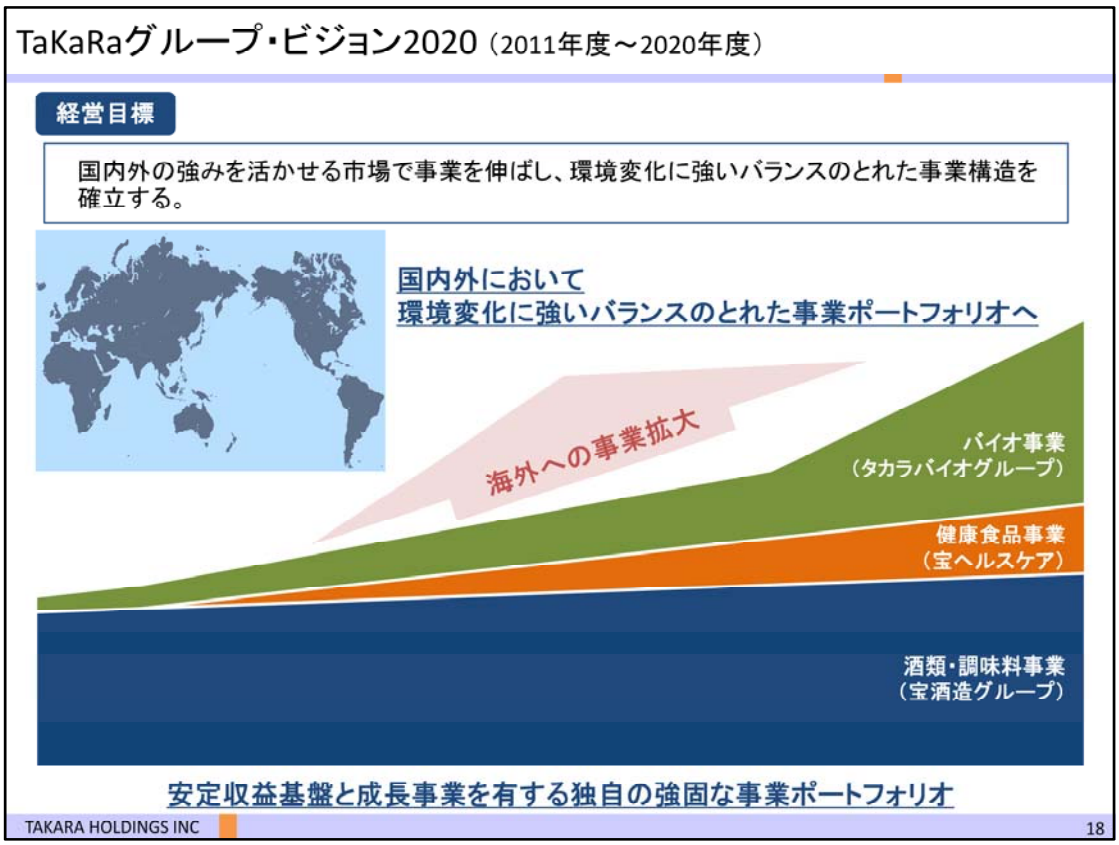
・まず、宝酒造単体でみると、円安に伴う粗留アルコールや燃料の価格上昇により、合計で約16億円のコストアップとなる見込みですが、コストダウンの取組みを進め、ネットのコストアップは、3億1,500万円にとどめる計画です。
・売上の増加や、商品構成の改善による総利益の増加は、15億9,600万円を見込んでおりますが、売上増加に伴う販売促進費や運送費の上昇などによって販管費が増加する計画であり、宝酒造単体の営業利益は、ほぼ前期並みとなる予想です。
・その他子会社等の営業利益は、4億6,300万円の増益を見込んでおり、宝酒造グループトータルでは増益となる計画です。

以上のように、宝酒造単体では前期の利益水準を維持し、子会社を含めた宝酒造グループとして増益を目指してまいります。



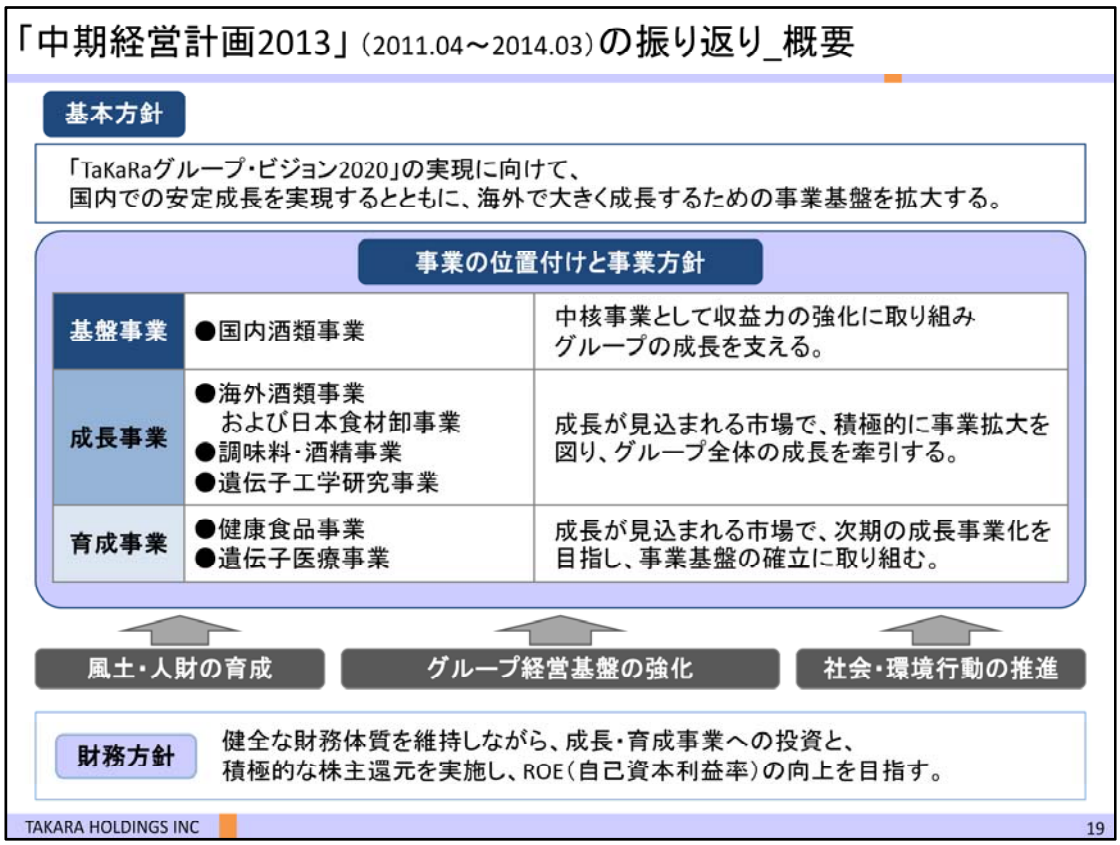
【中期経営計画　発表者:代表取締役社長　柿本 敏男】

・「TaKaRaグループ中期経営計画2016」について、ご説明いたします。



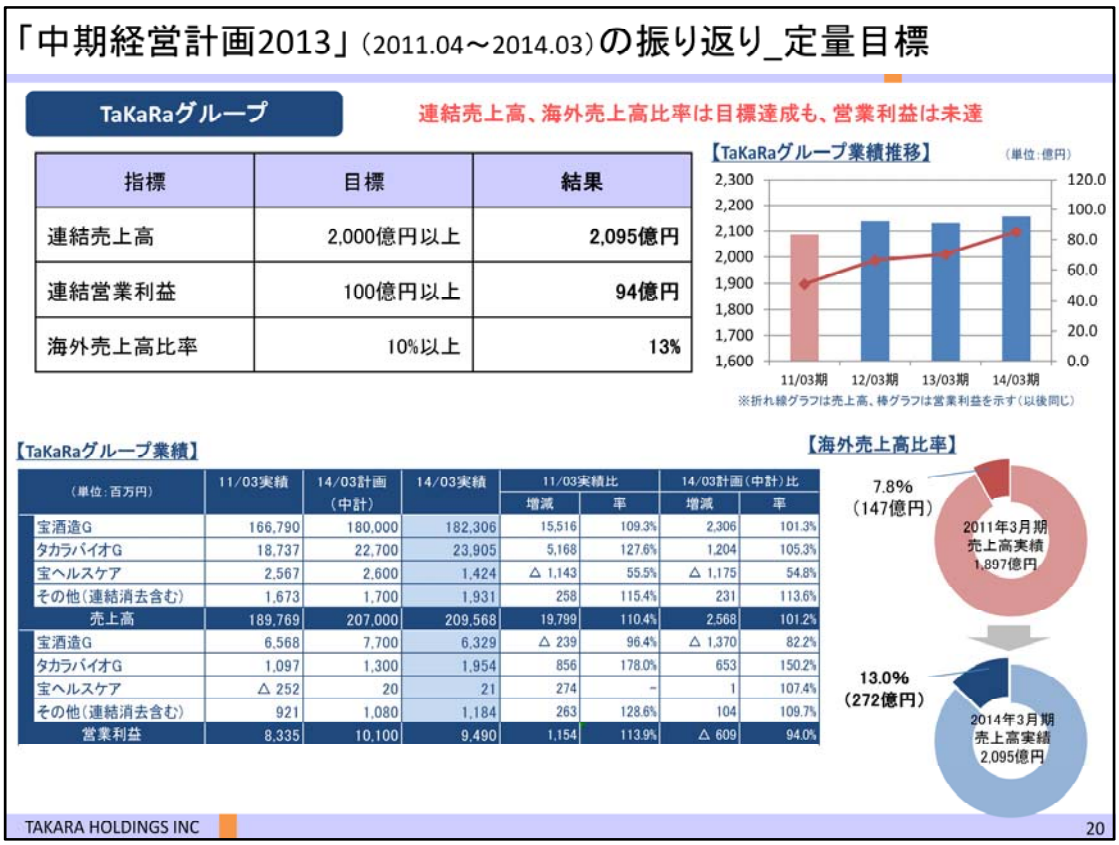
＜「 TaKaRaグループ中期経営計画2013」の振り返り＞

・当社は、2011年4月に、10年間の長期経営ビジョンである「TaKaRaグループ・ビジョン2020」をスタートさせました。
・酒類・調味料事業という基盤事業と、バイオ事業と健康食品事業という、将来性のある、成長・育成事業を併せ持つ、独自の強固な事業ポートフォリオを、さらに強化していくことで、国内外において、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを、目標に掲げています。



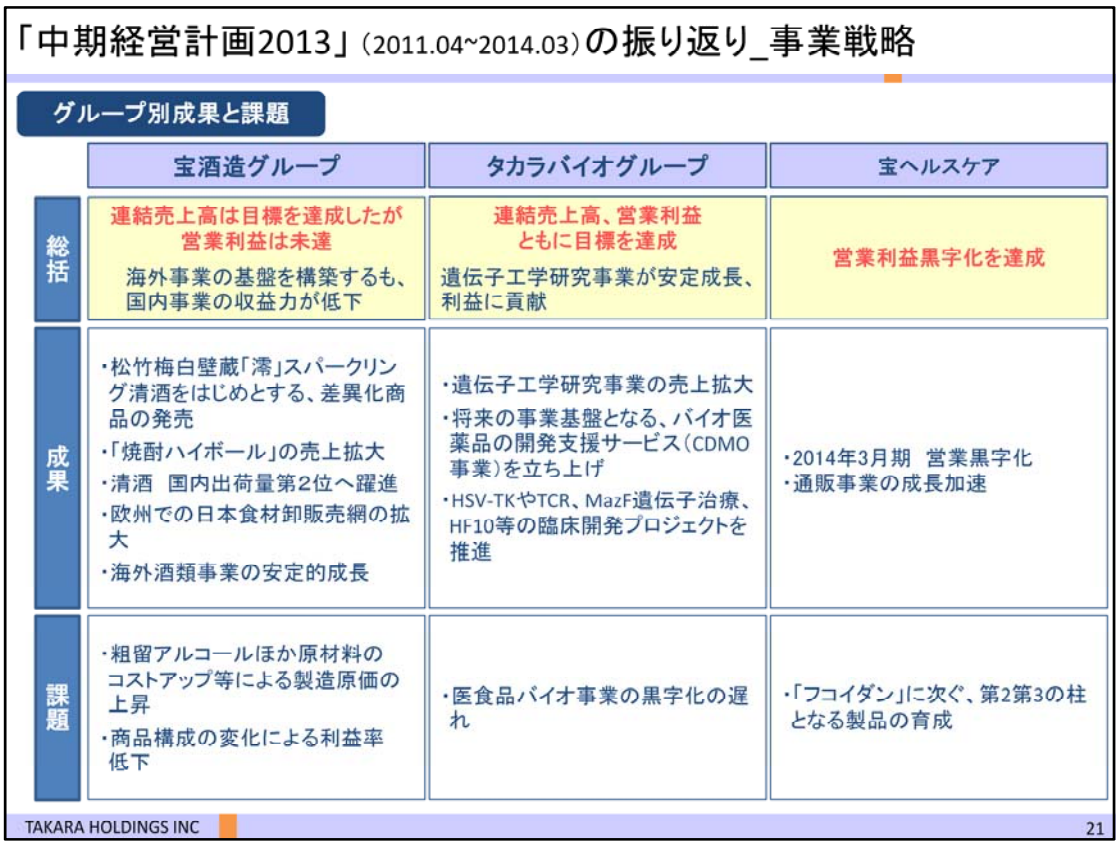
・その第1ステップとして、前期までの3年間、「TaKaRaグループ中期経営計画2013」に、取り組んでまいりました。

・この中計では、「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための、事業基盤を拡大することを、基本方針に掲げました。



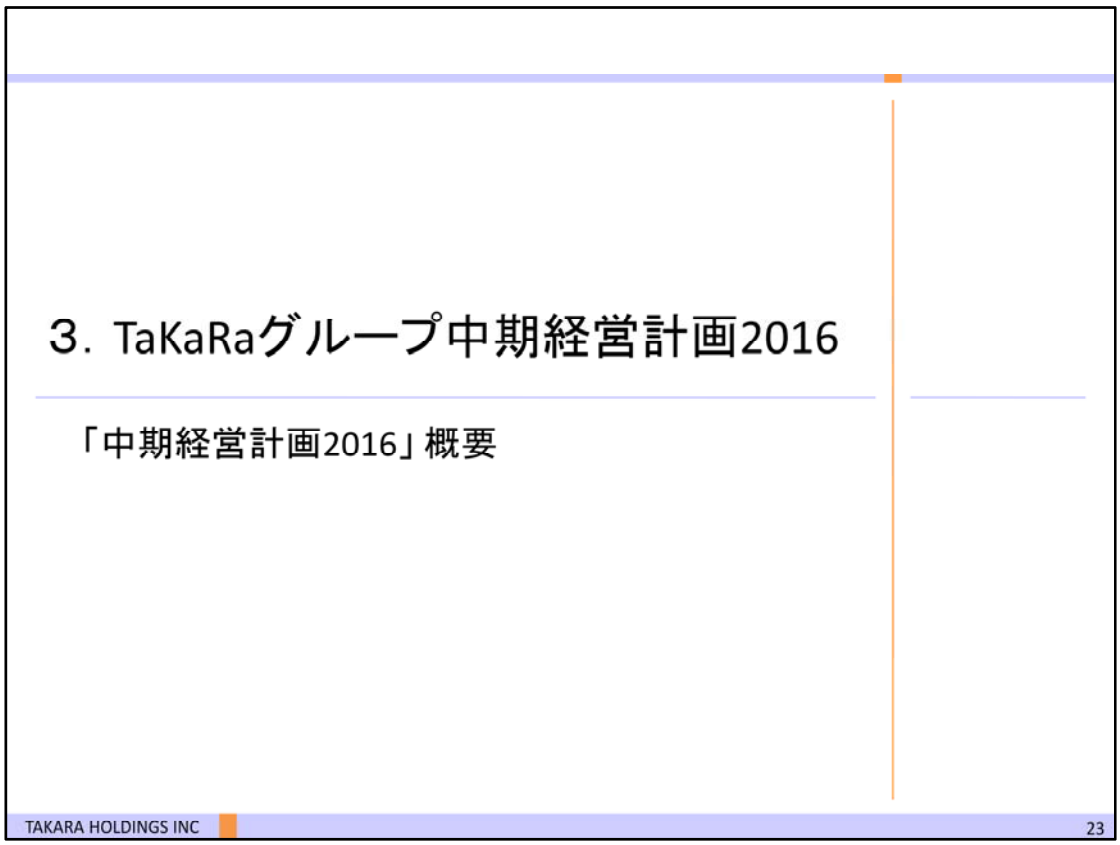
・定量目標といたしましては、2014年3月期のTaKaRaグループ連結売上高2,000億円以上、連結営業利益100億円以上、そして当社グループとして初めて、海外売上高比率を目標に掲げ、10%以上を目指して取り組んでまいりました。

結果としまして、連結売上高は2,095億円、海外売上高比率は13%と目標を達成いたしましたが、営業利益については94億円と、目標未達に終わりました。

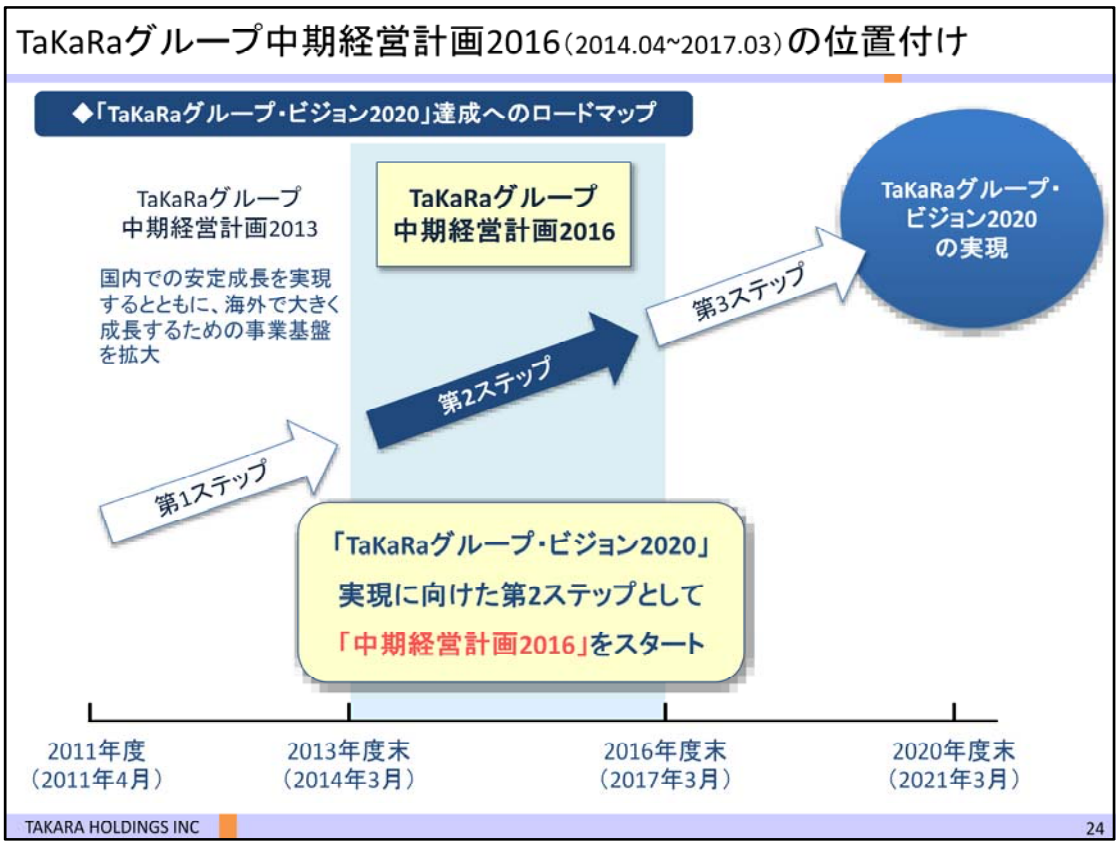


・グループ別に振り返ると、宝酒造グループにつきましては、連結売上高は目標を達成しましたが、営業利益は未達、 タカラバイオグループでは、連結売上高、営業利益ともに目標を達成し、宝ヘルスケアにつきましては、2014年3月期に、営業黒字化を達成しました。

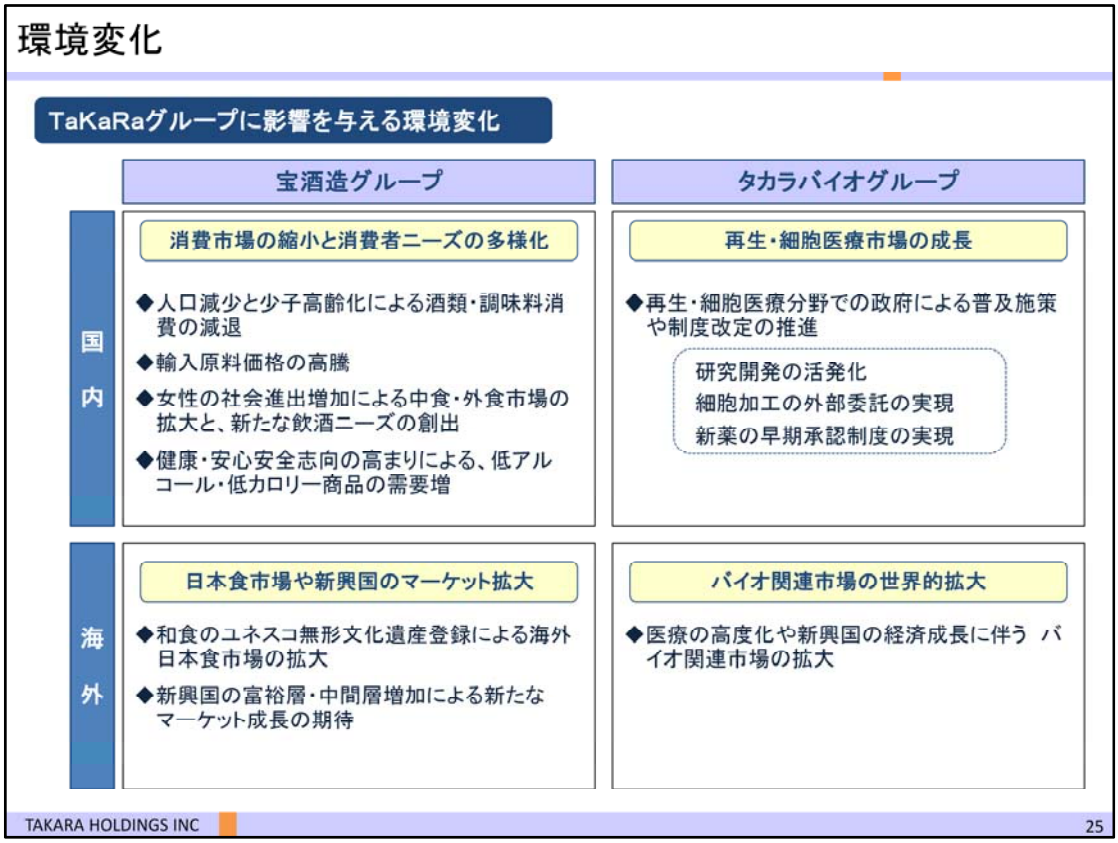
・財務方針としては、健全な財務体質の維持と成長・育成事業への投資、そして積極的な株主還元によるROEの向上を目指して取り組んでまいりました。
・成長・育成事業への投資は、タカラバイオのバイオ産業支援事業の中核となる新施設への設備投資や、海外の日本食材卸事業への展開などにより、累計100億円以上となりました。
・株主還元につきましては、3ヶ年総額で約100億円となり、株主還元性向は、60%以上となりました。



＜「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の説明＞



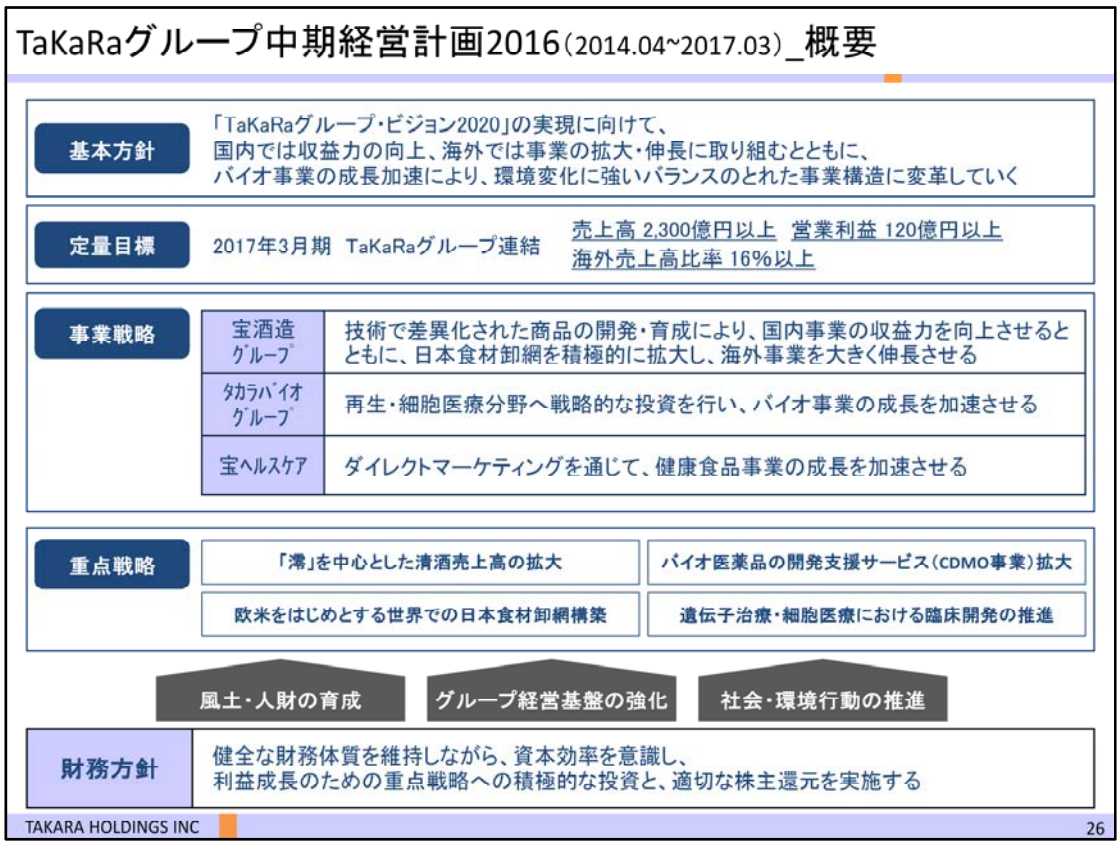
・今期より取り組む「中期経営計画2016」は、「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の、第2ステップという位置付けになります。



・当社を取り巻く環境について、宝酒造グループと、タカラバイオグループ、それぞれについて国内と海外という観点から確認いたします。

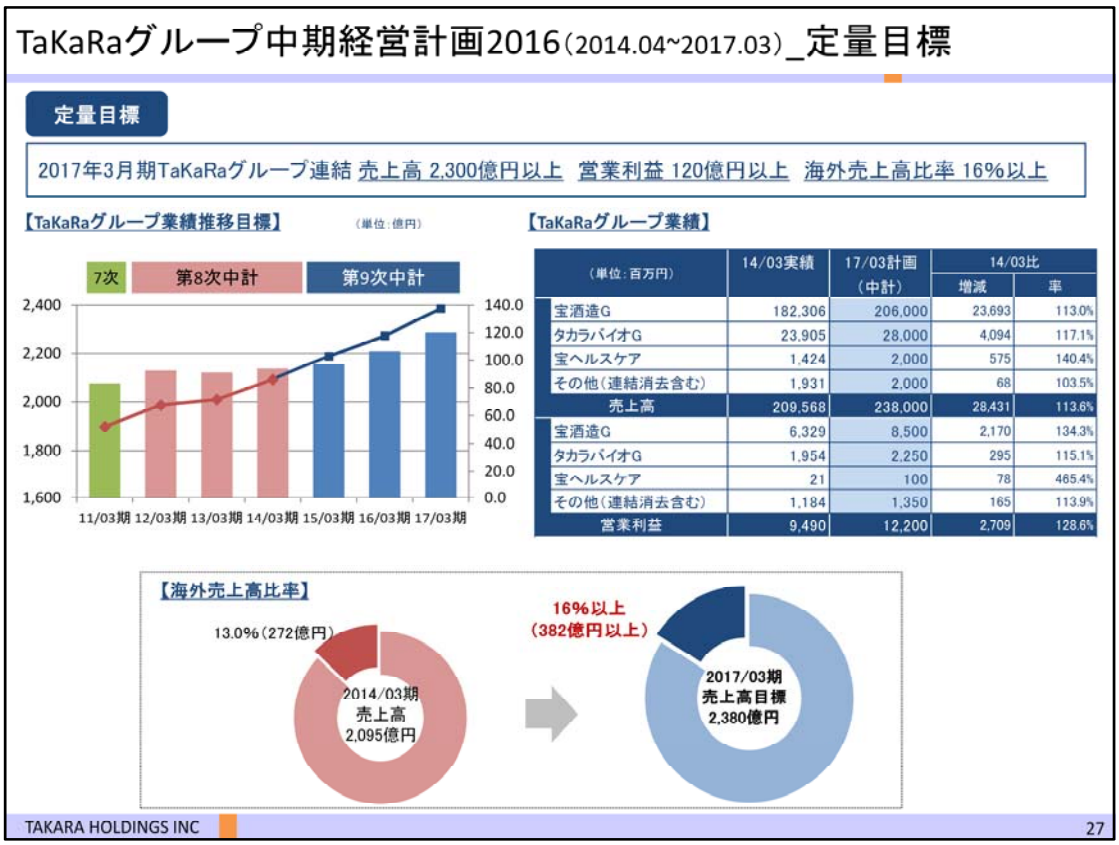
・宝酒造グループについては、国内では、消費市場の縮小と、消費者ニーズの多様化が進み、海外では、日本食市場や新興国の、マーケット拡大が期待されます。
・タカラバイオグループに関しては、国内の再生・細胞医療市場の成長、海外では、バイオ関連市場の、世界的拡大が見込まれています。

・総じて、当社にとっては、厳しい中ではあるものの、成長を見込める機会も、数多く存在すると認識しています。

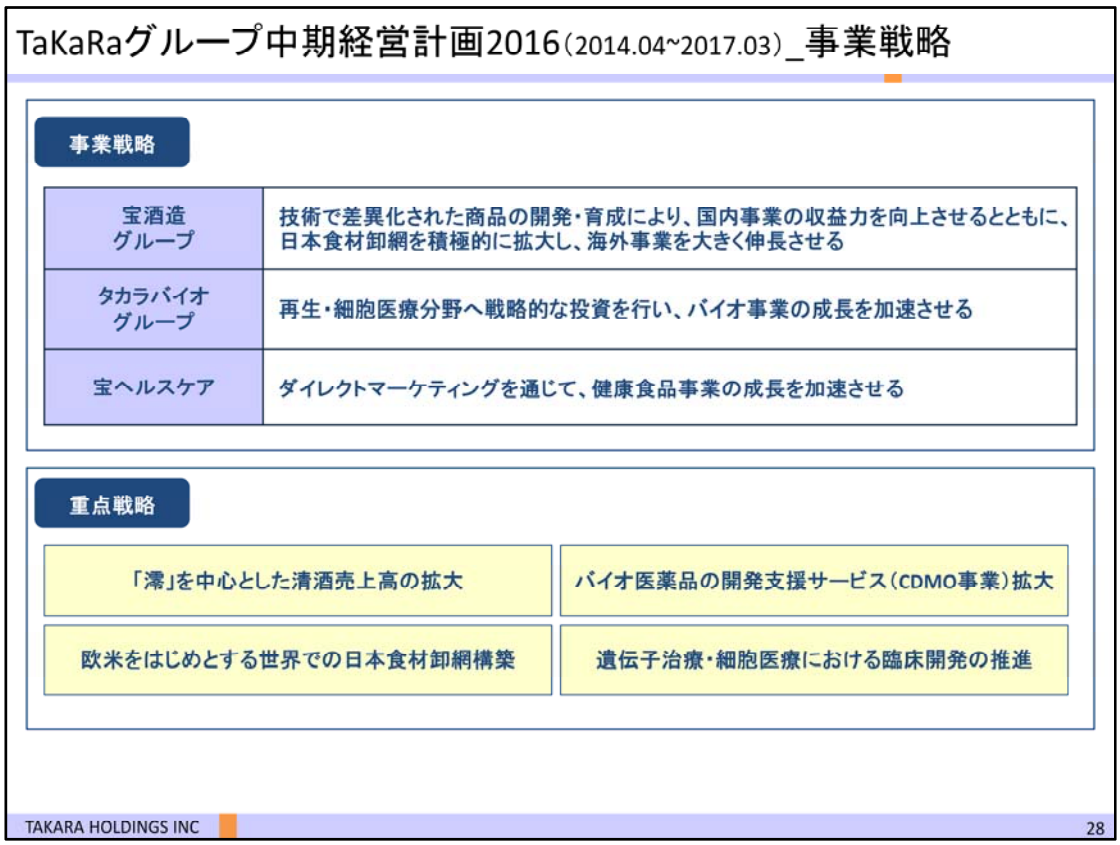


「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の概要についてご説明いたします

＜基本方針＞
「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内では、収益力の向上、海外では、事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強い、バランスのとれた事業構造に変革していく、としています。



＜定量目標＞
2017年3月期のTaKaRaグループ連結売上高2,300億円以上、営業利益120億円以上、海外売上高比率16%以上を目指します。



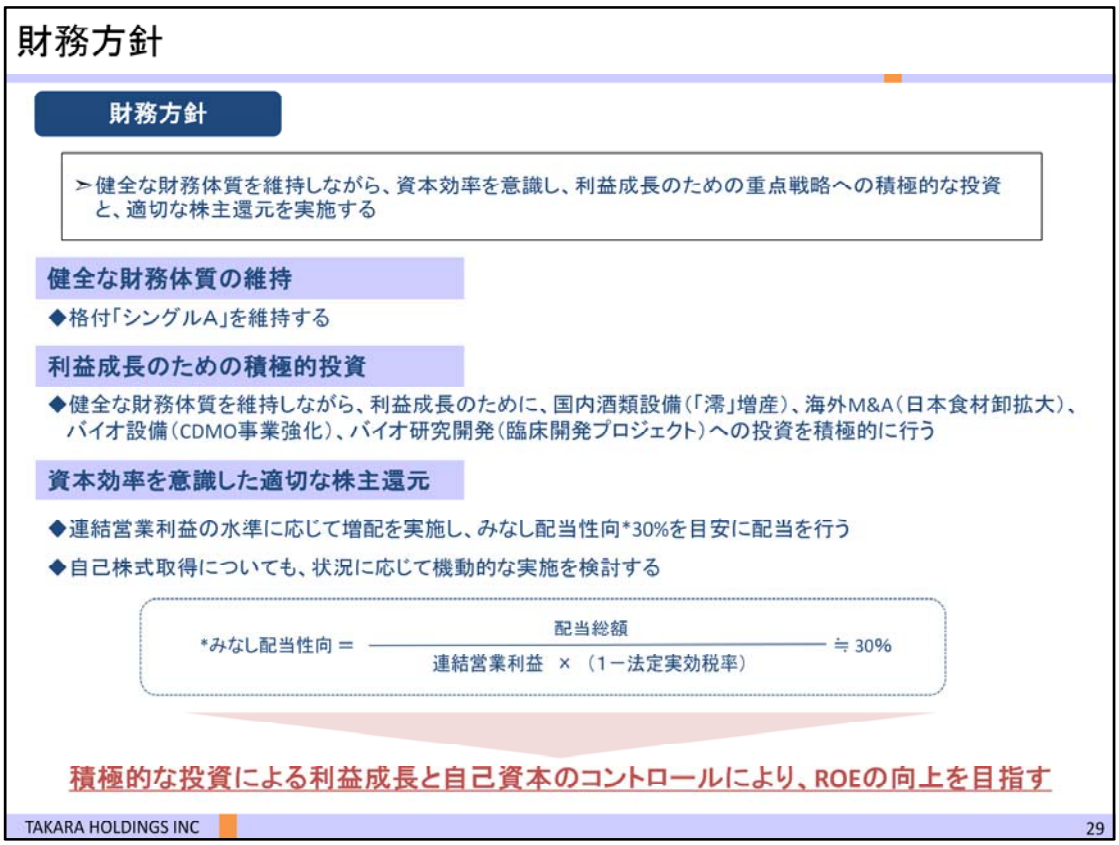
＜各グループの事業戦略＞

・宝酒造グループでは、技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させます。

・タカラバイオグループでは、再生・細胞医療分野への戦略的な投資をおこない、バイオ事業の成長を加速させます。

・宝ヘルスケアでは、ダイレクト・マーケティングを通じて健康食品事業の成長を加速させます。

・重点戦略は以下の4点です。
・松竹梅白壁蔵「澪」を中心とした清酒売上高の拡大
・欧米をはじめとする、世界での日本食材卸網構築
・バイオ医薬品の開発支援サービスである、CDMO事業の拡大
・遺伝子治療・細胞医療における、臨床開発の推進



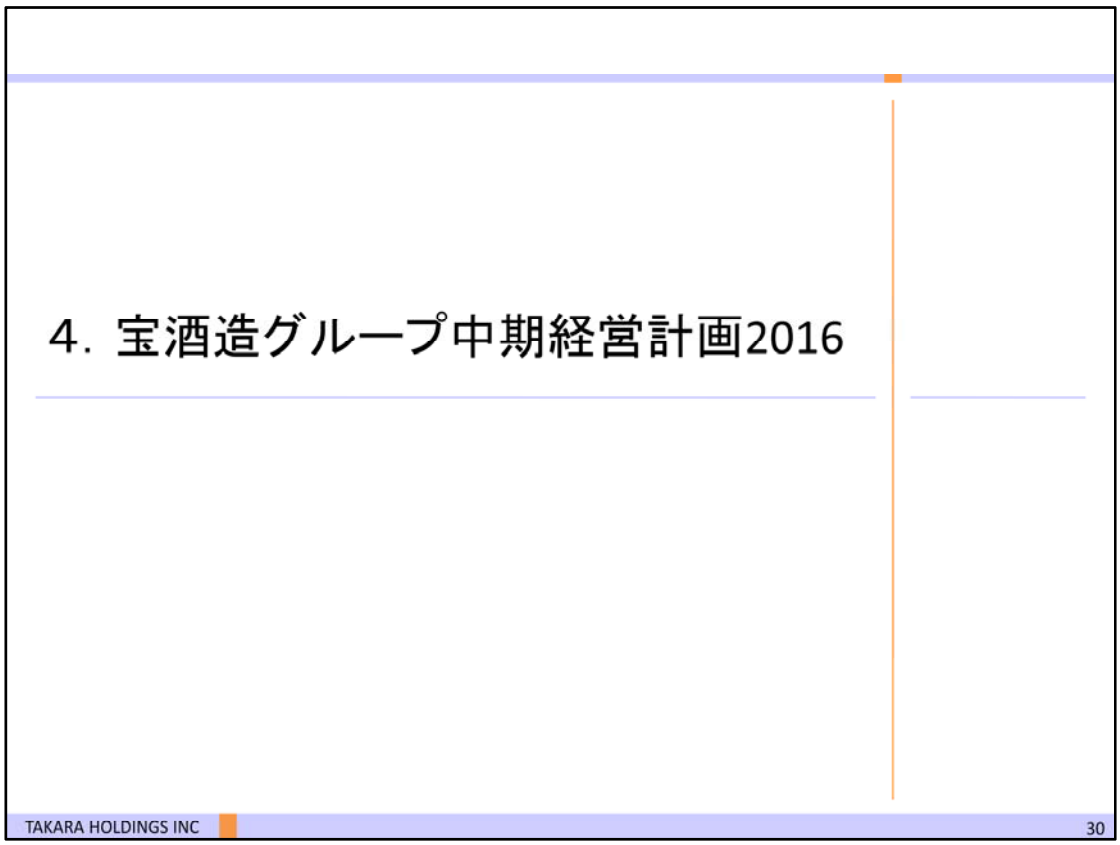
＜財務方針＞

・健全な財務体質を維持しながら、資本効率を意識し、利益成長のための、重点戦略への積極的な投資と、適切な株主還元を実施します。

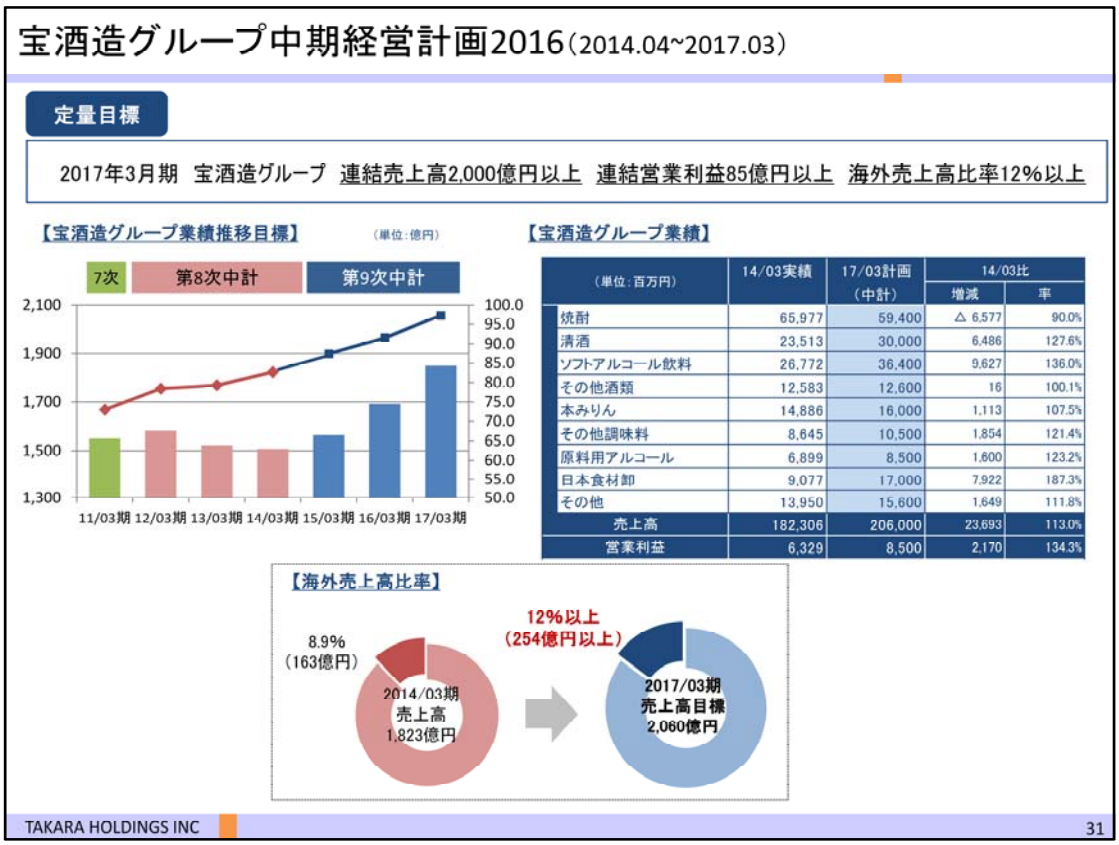
・利益成長のために、「澪」の増産を中心とした国内酒類、日本食材卸網の拡大に向けた海外M&A、また、バイオのCDMO事業などへの設備投資と、バイオの臨床開発プロジェクトに対する研究開発投資を積極的に行い、営業利益の増加を図ります。

・株主還元としましては、税引後営業利益の30%を目安に、利益水準に応じた増配を実施します。

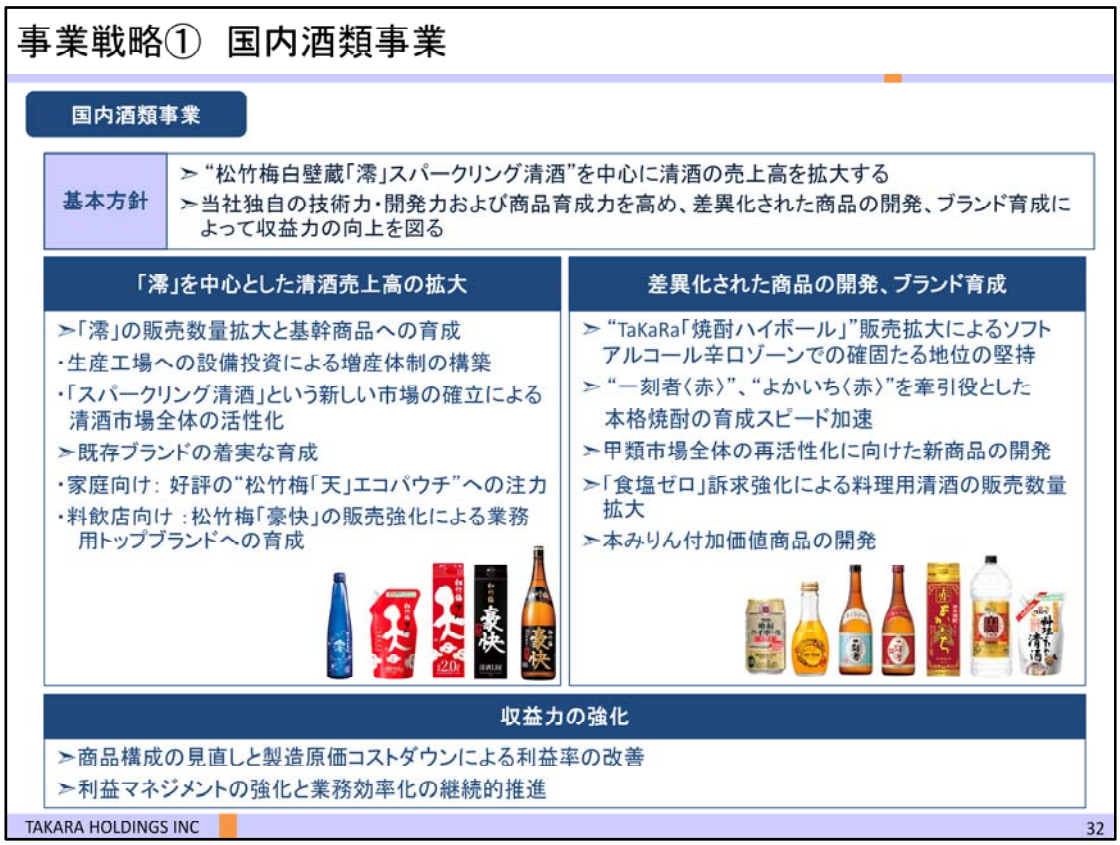
・そして、積極的な投資による利益成長と自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指してまいります。



・宝酒造グループの中期経営計画についてご説明いたします。



＜定量目標＞
連結売上高2,000億円以上、営業利益85億円以上、海外売上高比率12%以上を目指して取り組んでまいります。

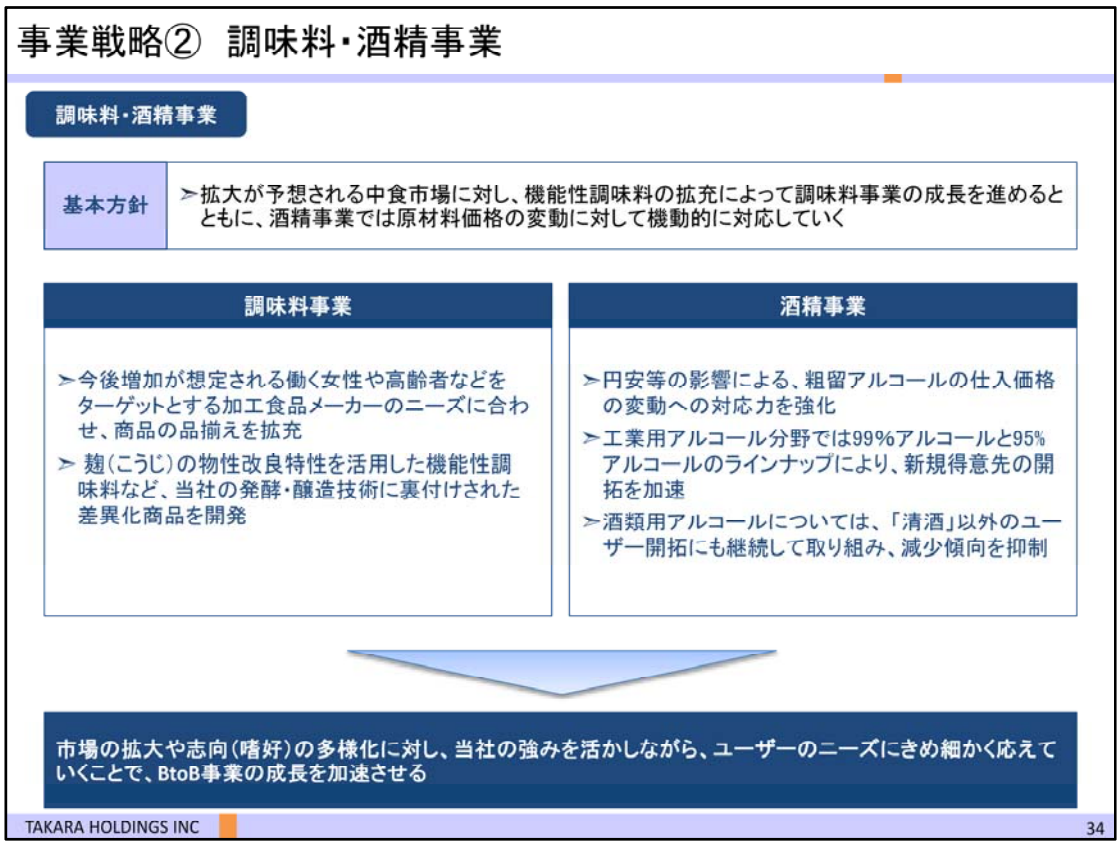


＜事業別戦略＞

・国内酒類事業については、松竹梅白壁蔵「澪」スパークリング清酒を中心に清酒の売上高を拡大することと、当社独自の技術力・開発力、および商品育成力を高め、差異化された商品の開発、ブランド育成によって収益力の向上を図ることを、基本方針としました。
・特に清酒については、「澪」増産のための設備投資をおこない、スパークリング清酒という新たなジャンルを、一つの市場として確立し、清酒市場全体を活性化させるとともに、松竹梅「天」などの、既存ブランドについても着実に育成することで、当社の清酒全体の売上高拡大を図ります。
・清酒以外についても、カテゴリーシェアトップのブランドを数多く持てるよう、商品の開発、育成に注力します。

・重点戦略にも挙げた、松竹梅白壁蔵「澪」スパークリング清酒について詳しくご説明いたします。

・松竹梅白壁蔵「澪」スパークリング清酒は、2011年の発売以来、飲食店、百貨店、通販のルート限定商品としてご案内しておりましたが、2013年9月より、販売ルートの拡大を実施しましたところ、お客様からのご好評を得て、当社の生産能力を超えるご注文をいただくこととなりました。
・現在、生産工場の設備増強を行っており、本年夏頃より段階的に生産量を拡大できる見通しです。
・これを機に、積極的な販売拡大に転じ、目標として、販売数量200万ケース、売上高80億円規模の基幹商品に育成してまいります。
・販売促進の面でも、テレビCMや、店頭でのプロモーション活動、人気イベントとのタイアップなどを積極的に展開し、ファンの拡大を図っていきたいと考えています。



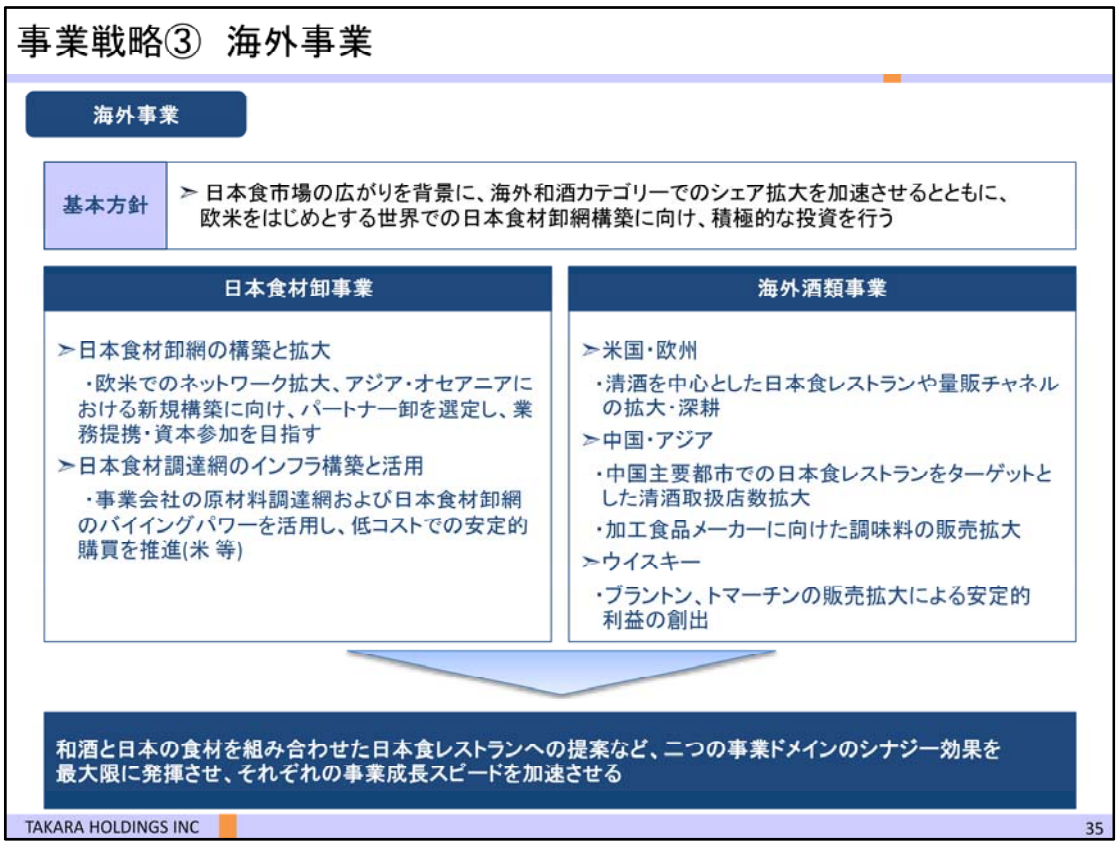
・調味料・酒精事業の戦略についてご説明いたします。

・基本方針は、拡大が予想される中食市場に対し、機能性調味料の拡充によって調味料事業の成長を進めるとともに、酒精事業では原材料価格の変動に対して機動的に対応していくこととしました。

・調味料事業については、ユーザーのニーズの広がりに合わせて商品の品揃えを拡充すべく、麹の機能を活用した調味料など、当社の発酵・醸造技術に裏付けされた、差異化商品の開発に取り組んでまいります。

・酒精事業については、円安等の影響による粗留アルコールの仕入価格の変動への対応力を強化するとともに、新たなユーザーの開拓を進めてまいります。

・こうしたBtoB事業については、市場の拡大や志向の多様化に対し、当社の強みを活かしながらユーザーのニーズにきめ細かく応えていくことで事業の成長を加速させていきたいと考えています。



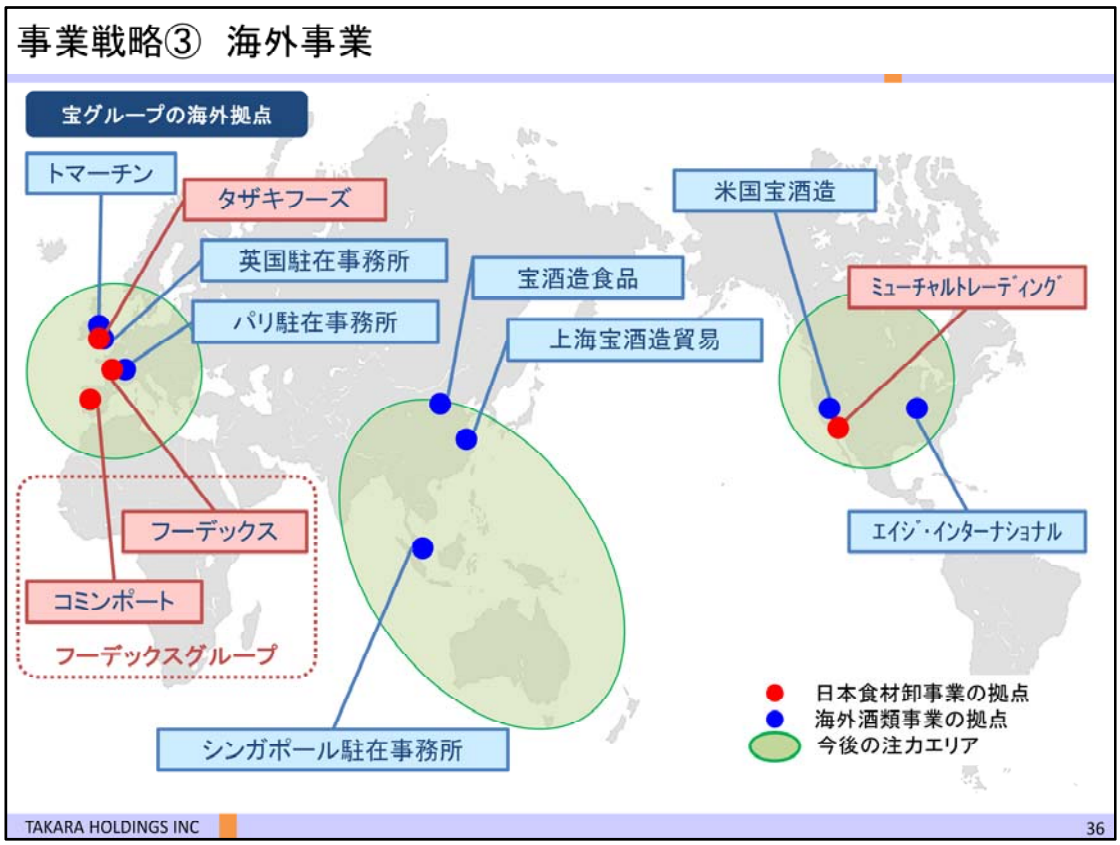
・海外事業についてご説明いたします。

・日本食市場の広がりを背景に、海外での和酒カテゴリーのシェア拡大を加速させるとともに、欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築に向け積極的な投資を行うことを、基本方針に挙げました。

・日本食材卸事業では、ヨーロッパやアメリカでこれまでに構築したネットワークを拡大・強化するとともに、アジア・オセアニア地域で新たな販売網を構築すべく、パートナー企業を選定し、業務提携や資本参加等、積極的な投資を進めます。

・海外酒類事業については、アメリカ・ヨーロッパでは清酒を中心に日本食レストランおよび量販チャネルの、拡大と深耕を進めます。

・この2つの事業を両輪として、例えば、和酒と日本の食材を組み合わせた日本食レストランへの提案など、2つの事業ドメインのシナジー効果を最大限に発揮させ、それぞれの事業成長スピードを加速させてまいります。



・こちらは、宝酒造グループの海外拠点を示したものです。

・赤い印が日本食材卸事業の拠点、青い印が海外酒類事業の拠点を示します。
・今後は、ヨーロッパや北米での日本食材卸のネットワークをさらに拡大・強化していくとともに、
・まだ赤い印のないアジア・オセアニア地域にも新たな販売網を構築すべく、積極的に取り組んでまいります。

事業戦略③　海外事業

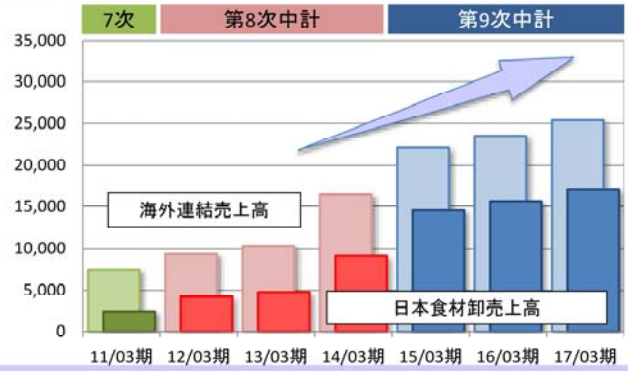
海外売上高推移計画値

（単位：百万円）	14/03実績	17/03計画（中計）	14/03比 増減	14/03比 率
焼酎	254	296	42	116.7%
清酒	2,109	2,398	289	113.7%
ソフトアルコール飲料	59	111	51	187.8%
その他酒類	4,205	4,646	441	110.5%
本みりん	477	573	95	120.0%
その他調味料	286	361	74	126.2%
原料用アルコール等	12	12	△ 0	99.7%
日本食材卸事業	9,077	17,000	7,922	187.3%
売上高	16,481	25,400	8,918	154.1%

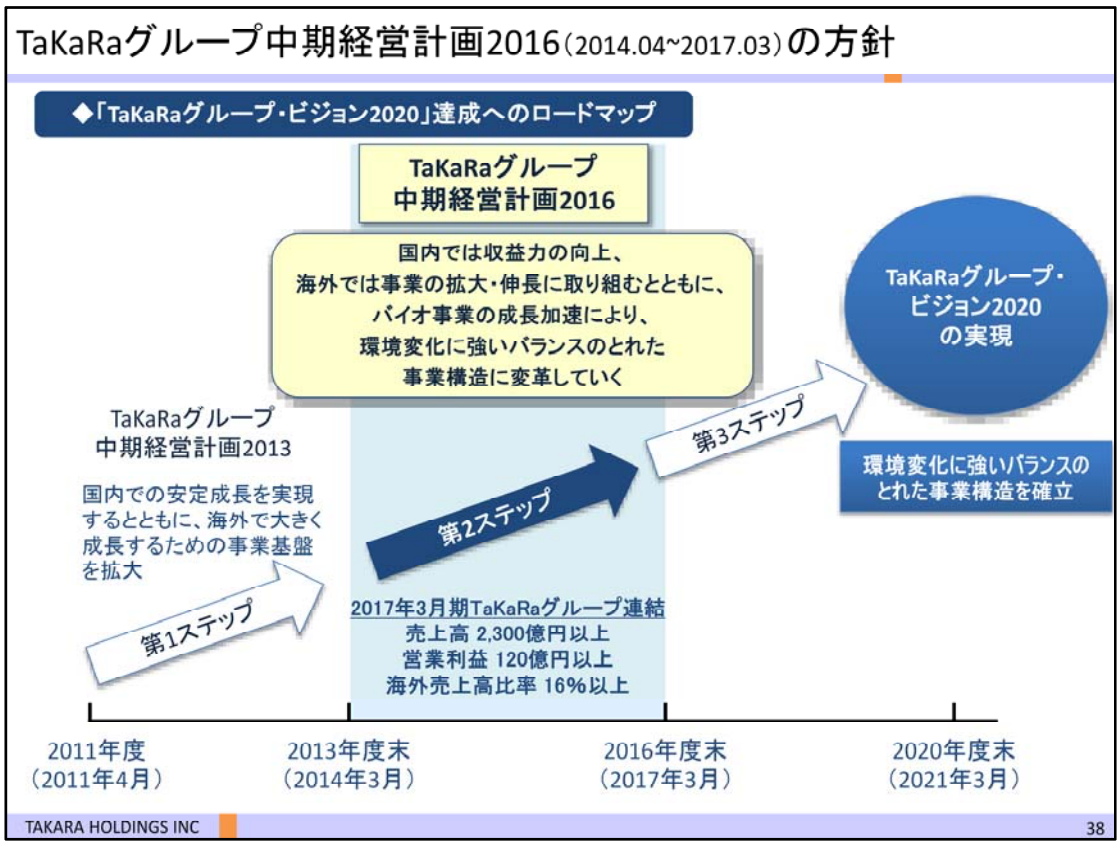
＜米国宝製　清酒「松竹梅」＞

（単位：百万円）

＜フランス系　大手寿司チェーン＞



以上の、施策により、
2017年3月期の海外売上高として、250億円以上を目指します。



・最後にもう一度、本中計の方針を確認します。

・「TaKaRaグループ中期経営計画2016」では、「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けた第2ステップとして、国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していくことを基本方針としています。

・定量目標として、2017年3月期のTaKaRaグループ連結売上高2,300億円以上、営業利益120億円以上、海外売上高比率16%以上、を目指します。

・当社は、これまでに築いてきた、高い技術力と事業ポートフォリオをベースに、国内はもとより海外においても事業を伸ばし、長期ビジョンを実現することこそが、持続的成長を成し遂げると確信し、本中計に取り組んでまいります。

以上で、説明を終了いたします。

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

<お問合せ>
宝ホールディングス株式会社　IR室
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp

＜参考資料＞

宝HLD連結_包括利益計算書

（2014年3月期）

（単位：百万円）	13/03期 実績	14/03期 実績	増減
少数株主損益調整前当期純利益	5,247	**11,006**	5,759
その他の包括利益合計	4,911	**14,845**	9,933
その他有価証券評価差額金	1,850	**1,340**	△ 509
繰延ヘッジ損益	35	**259**	223
為替換算調整勘定	2,960	**6,994**	4,034
持分法適用会社に対する持分相当額	65	**402**	337
持分変動差額	ー	**5,847**	5,847
包括利益	10,158	**25,851**	15,692
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	8,954	**23,706**	14,752
少数株主に係る包括利益	1,204	**2,145**	940

宝HLD連結_B/S概要：資産

（2014年3月期）

（単位：億円）	13/03末	14/03末	増減	主な増減理由
流動資産	1,332	1,505	172	
現金及び預金	367	410	42	TH ▲10.1 TS ＋20.7 TB ＋30.3
受取手形及び売掛金	506	519	12	TS ＋9.3 TB ＋2.8
有価証券	152	215	62	TH ▲10.0 TS ＋11.6 TB ＋61.1
たな卸資産	257	309	52	TS ＋43.3 TB＋9.5
その他	48	51	2	
固定資産	743	880	137	
有形固定資産	426	479	53	当期の有形・無形固定資産の増減内訳
無形固定資産	54	116	62	新規取得 ＋89.6（TS ＋29.5 TB ＋55.3）
のれん	37	75	37	減価償却 ▲42.8（TS ▲29.6 TB ▲11.5）
その他	16	41	24	その他増減 ＋33.9
投資その他資産	262	283	21	
投資有価証券	210	235	24	
その他	51	48	△3	
資産合計	2,075	2,385	309	

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産

（2014年3月期）

（単位：億円）	13/03末	14/03末	増減	主な増減理由
流動負債	493	486	△ 7	
支払手形及び買掛金	130	144	13	TS ＋14.3　TB ＋4.9
借入金・社債	100	59	△ 40	第6回普通社債（2013年5月償還） ▲50.0
その他	263	283	19	
固定負債	438	434	△ 3	
借入金・社債	254	253	△ 1	
その他	184	181	△ 2	
負債合計	932	921	△ 11	
株主資本合計	985	1,112	127	
資本金・資本剰余金	164	164	0	
利益剰余金	904	1,047	143	
自己株式	△ 83	△ 99	△ 15	自己株式取得（2013年11月：1,500千株） ▲14.7
その他包括利益累計額	15	102	86	
少数株主持分	142	249	107	
純資産合計	1,143	1,464	321	

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー：営業CF～投資CF

（2014年3月期）

（単位：億円）	13/03期 実績	14/03期 実績	増減
営業キャッシュ・フロー (a)	79	72	▲ 7
税金等調整前当期純利益	92	186	93
減価償却費	42	42	0
売上債権の増減額（▲：増加）	5	7	2
たな卸資産の増減額（▲：増加）	0	▲ 24	▲ 24
仕入債務の増減額（▲：減少）	▲ 12	4	17
未払酒税の増減額（▲：減少）	▲ 6	▲ 15	▲ 8
法人税等の支払額	▲ 35	▲ 35	▲ 0
その他	▲ 6	▲ 94	▲ 88
投資キャッシュ・フロー (b)	▲ 36	▲ 122	▲ 85
有形及び無形固定資産の取得による支出	▲ 53	▲ 83	▲ 29
有形固定資産の売却による収入	17	0	▲ 16
関係会社株式の売却による収入	6	122	116
連結範囲の変更を伴う子会社株式・出資金の取得等による支出	▲ 0	▲ 57	▲ 56
その他	▲ 5	▲ 104	▲ 99
フリー・キャッシュフロー (a+b)	42	▲ 50	▲ 93

宝HLD連結_キャッシュ・フロー：財務CF～期末残高

（2014年3月期）

（単位：億円）	13/03期 実績	14/03期 実績	増減
財務キャッシュ・フロー	12	**25**	13
社債の発行及び長期借入による収入	99	**0**	▲ 98
社債の償還及び長期借入金の返済による支出	▲ 51	**▲ 51**	0
自己株式の取得による支出	▲ 15	**▲ 15**	0
配当金の支払額	▲ 18	**▲ 18**	0
その他	▲ 1	**109**	111
現金及び現金同等物増減	61	**▲ 6**	▲ 68
現金及び現金同等物期首残高	291	**352**	61
現金及び現金同等物期末残高	352	**346**	▲ 6

宝HLD連結_P/L概要

（2015年3月期 第2Q累計 業績予想）

（単位：百万円）	12/03期 2Q累計計画	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造G	88,300	2,587	3.0
タカラバイオG	11,038	761	7.4
宝ヘルスケア	770	95	14.2
その他	892	△ 5	△ 0.6
売上高	101,000	3,438	3.5
売上原価	63,000	2,391	3.9
売上総利益	38,000	1,046	2.8
販管費	35,430	871	2.5
宝酒造G	1,600	136	9.3
タカラバイオG	457	2	0.6
宝ヘルスケア	8	13	―
その他	505	23	4.9
営業利益	2,570	174	7.3
経常利益	2,570	5	0.2
当期純利益	1,250	△ 5,359	△ 81.1

宝酒造G_P/L概要

（2015年3月期 第2Q累計 業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計計画	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	31,200	Δ 1,928	Δ 5.8
清酒	9,200	831	9.9
ソフトアルコール飲料	14,100	Δ 367	Δ 2.5
その他酒類	6,300	313	5.2
本みりん	6,500	Δ 311	Δ 4.6
その他調味料	4,300	359	9.1
原料用アルコール等	3,200	15	0.5
日本食材卸	7,100	3,754	112.2
その他	6,400	Δ 78	Δ 1.2
売上高	88,300	2,587	3.0
売上原価	57,200	1,960	3.5
売上総利益	31,100	626	2.1
運送費、保管料	3,500	156	4.7
広告宣伝費	1,400	Δ 382	Δ 21.4
販売促進費等	15,400	Δ 200	Δ 1.3
研究開発費	200	33	20.4
管理費、その他	9,000	883	10.9
販管費	29,500	490	1.7
営業利益	1,600	136	9.3

為替レート（子会社P/L換算用レート）

●単年度

（単位：円）	13/03期 (12年1月-12月)	14/03期 (13年1月-12月)			15/03期 (14年1月-12月)	
	実績	11/1予想	実績	前期差	11/1予想差	予想	前期差
ドル	79.81	97.00	**97.73**	+17.92	+0.73	96.00	-1.73
ポンド	126.46	150.00	**152.79**	+26.33	+2.79	152.00	-0.79
ユーロ	102.56	128.00	**129.78**	+27.22	+1.78	130.00	+0.22
元	12.66	15.70	**15.92**	+3.26	+0.22	16.00	+0.08
100ウォン	7.09	8.70	**8.93**	+1.84	+0.23	8.50	-0.43
インドルピー	1.50	1.60	**1.68**	+0.18	+0.08	1.50	-0.18

●中期経営計画

（単位：円）	11/03期 (10年1月 12月)	14/03期 (13年1月 12月)			17/03期 (16年1月 12月)	
	実績	予想 (中計2013)	実績	11/03期差	予想差	予想 (中計2016)	11/03期差
ドル	87.79	80.00	**97.73**	+9.94	+17.73	96.00	-1.73
ポンド	135.53	130.00	**152.79**	+17.26	+22.79	152.00	-0.79
ユーロ	116.28	110.00	**129.78**	+13.50	+19.78	130.00	+0.22
元	12.96	12.50	**15.92**	+2.96	+3.42	16.00	+0.08
100ウォン	7.59	7.00	**8.93**	+1.34	+1.93	8.50	-0.43
インドルピー	-	-	**1.68**	-	-	1.50	-

※インドルピーはタカラバイオDSSインド設立（2011年5月）以前のデータなし